

南筑案内記

大森柳川著

268
497

定期現物信託

誠意

確實

大坂株式取引所仲買

三 加富士商店

公債株式賣買問屋

三 加富士商店

久留米市三本松町
長電話五一〇番

秘密

嚴守

公債株式現物問屋

久留米市通町三丁目



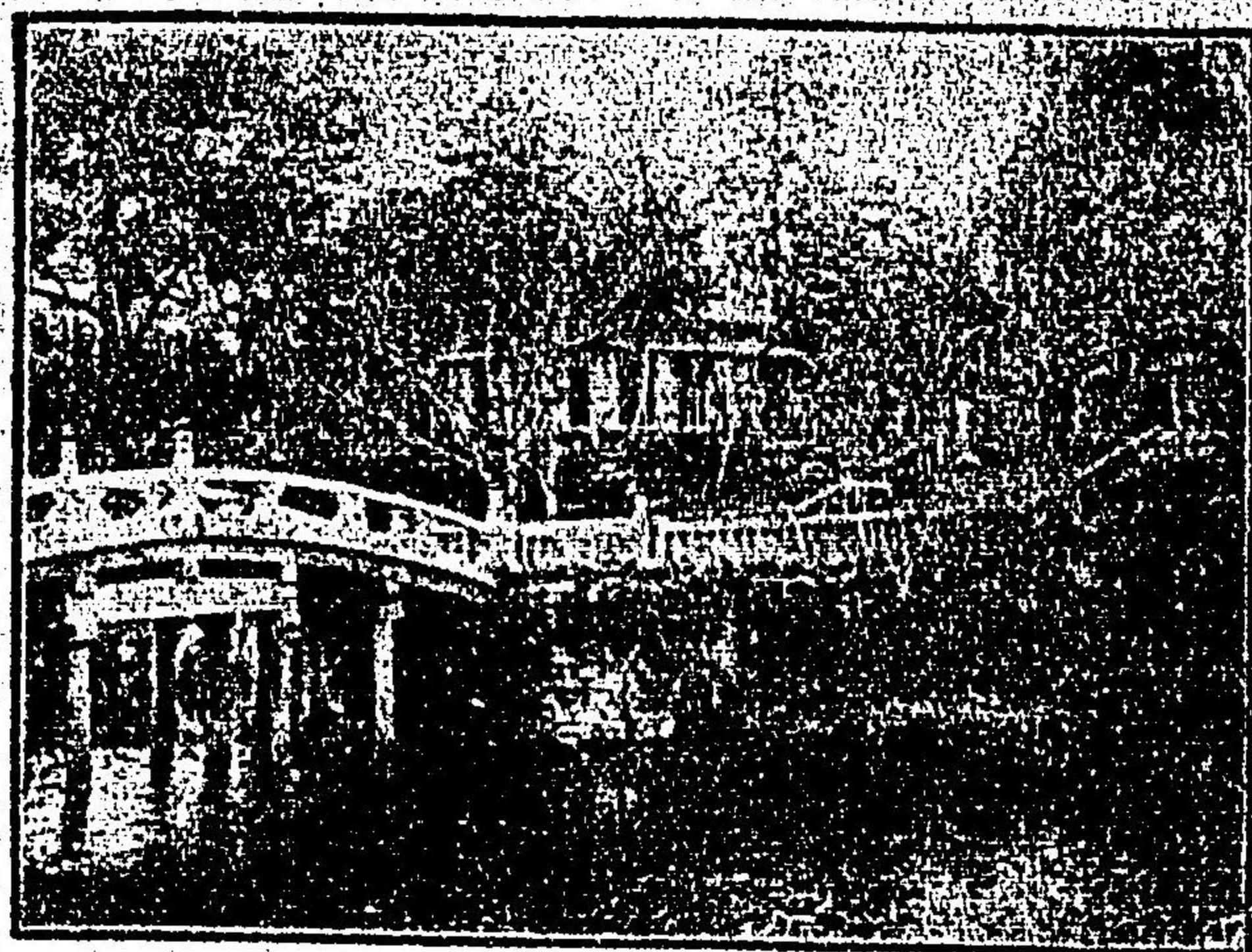
豊田商店

長電話二百二十六番

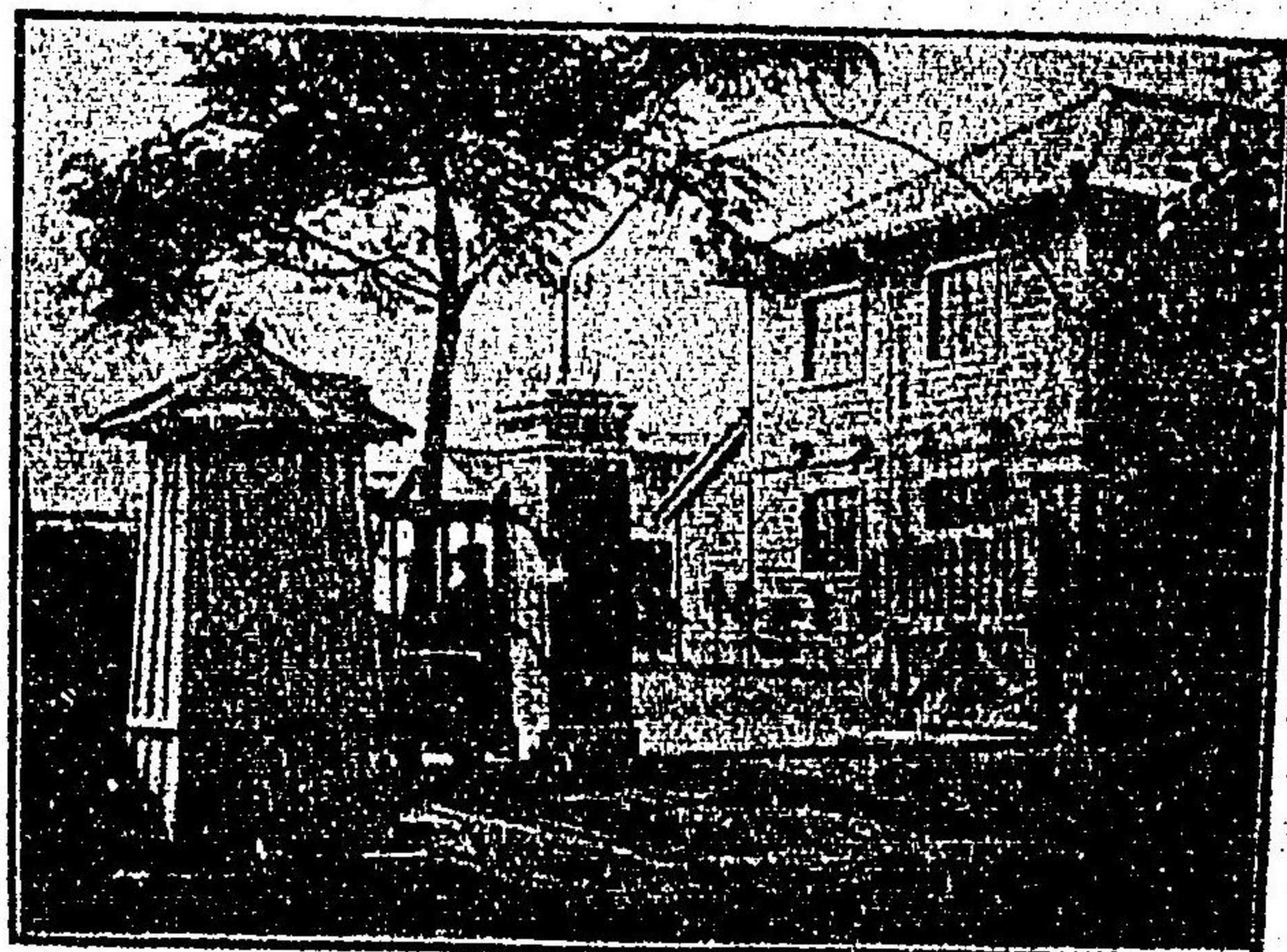
營業科目

- 一 公債、株式、賣買取引
 - 一 有價証券ニ對シ低利金融
 - 一 地方債、社債ノ引受及募集事務
 - 一 有利ナル事業ニ向ツテノ放資又ハ仲買
- 以上

特20
290



橋神社神敷五



隊聯二十二第兵步

村石肥料

筑後山門郡瀬高町

販賣店 村石肥料商會

振替貯金口座福岡一四八六番

九鉄矢部川驛前

製造所 村石肥料支店

福岡縣山門郡柳河
大字辻町廿番地
吳服商 楠川傳七

商號 阿波屋 電略クス
電話ノ番

藥局

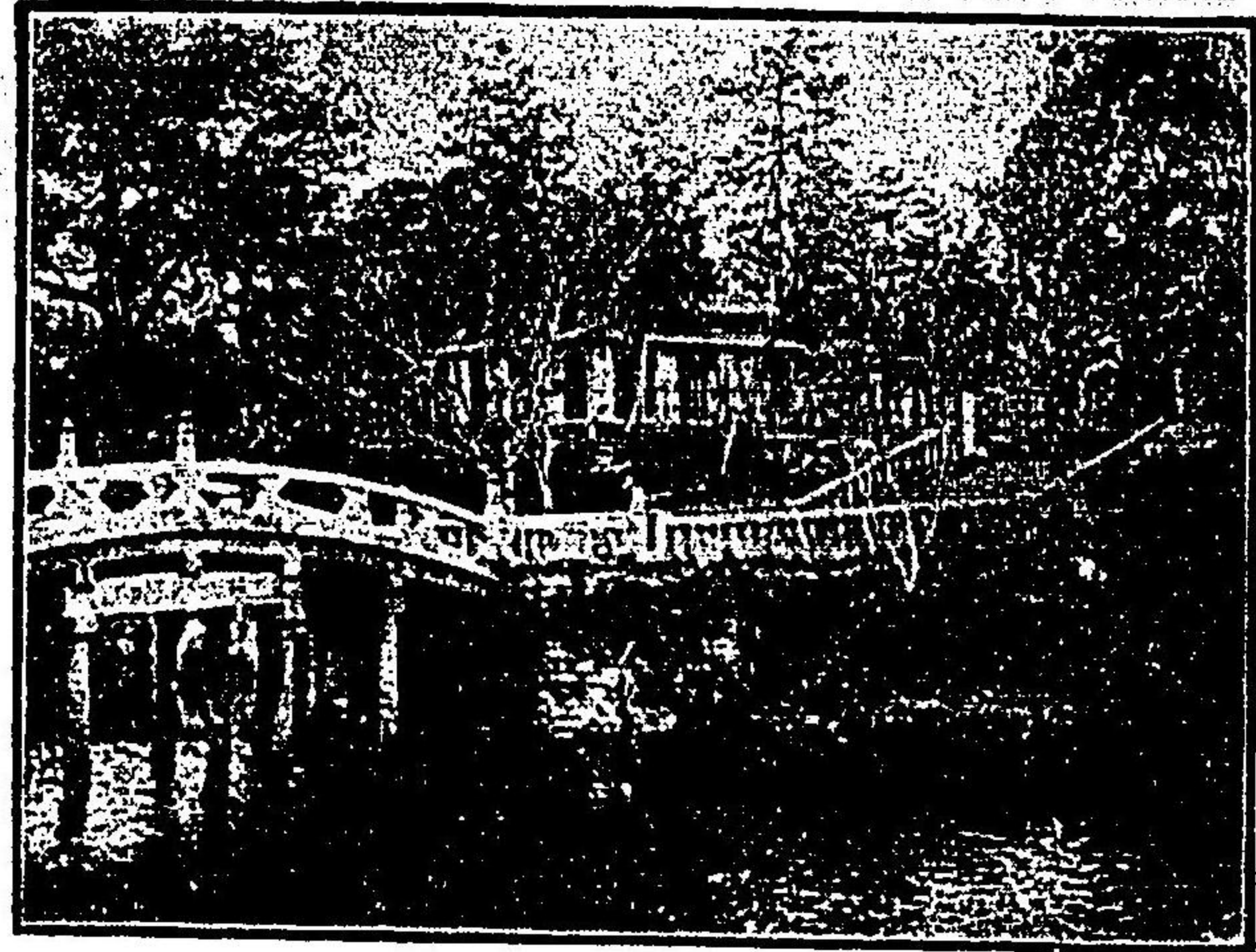
並ニ染料藥種
賣業洋酒商

筑後柳河辻町

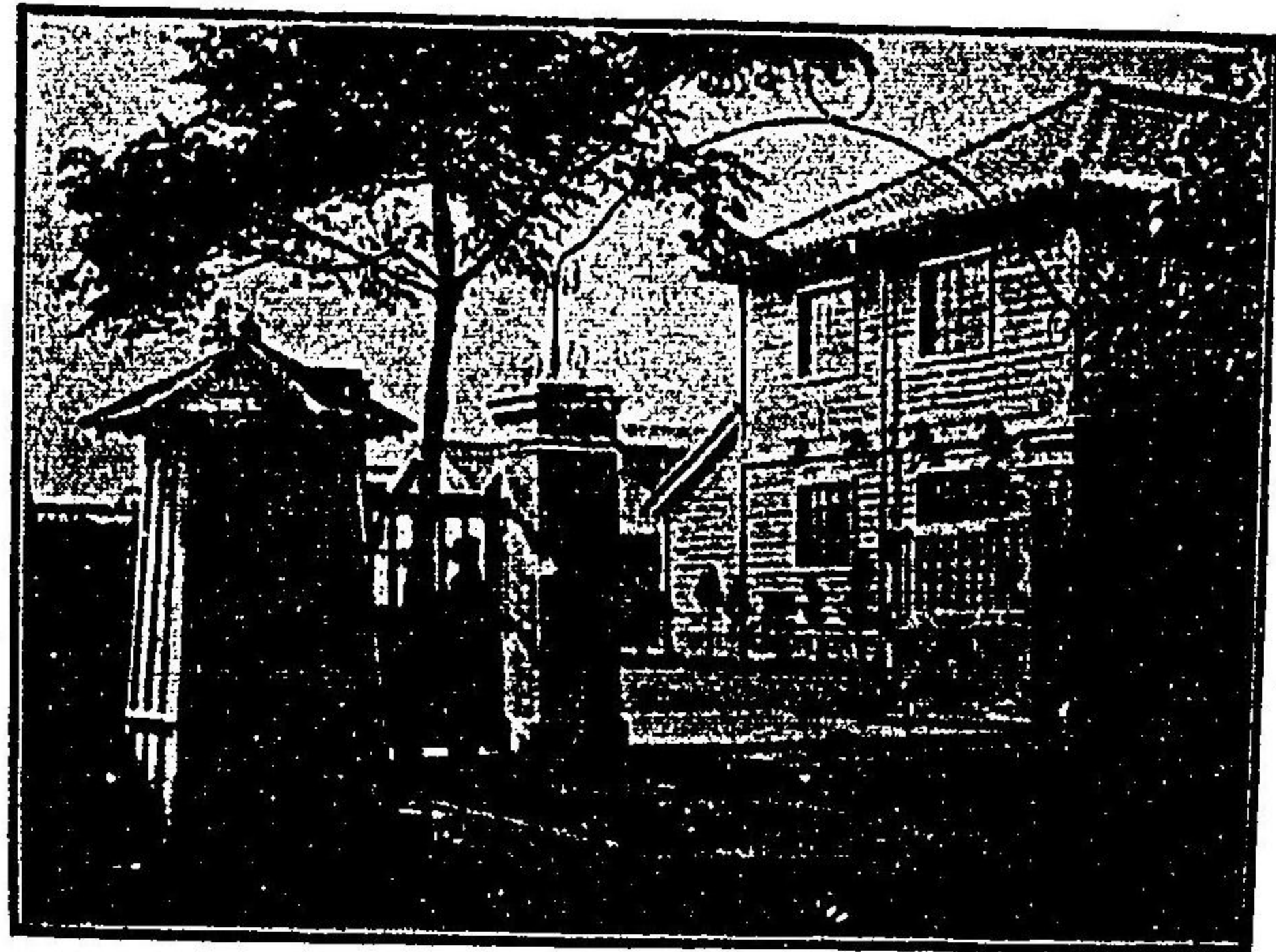
中 江口又一郎

電略
特電話二九番

特20
290



橋神社神敷五



隊聯二十二第兵步

村石肥料

筑後山門郡瀬高町

販賣店 村石肥料商會

振替貯金口座福岡一四八六番

九鉄矢部川驛前

製造所 村石肥料支店

福岡縣山門郡柳河
大字辻町廿番地

吳服商會 楠川傳七

商號 阿波屋

電話 略
電掛 略

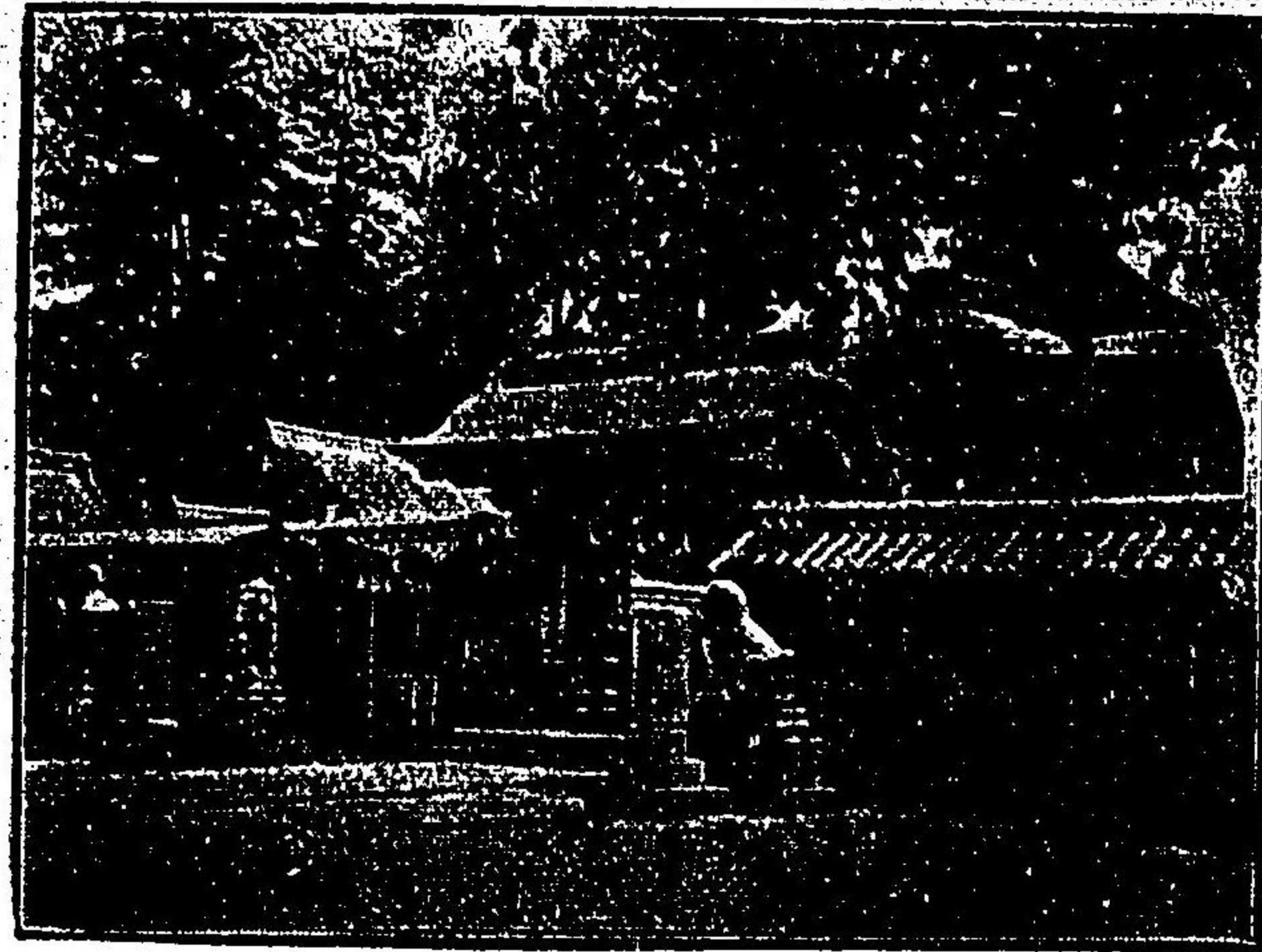
藥局

並ニ染料藥種
賣業 洋酒商

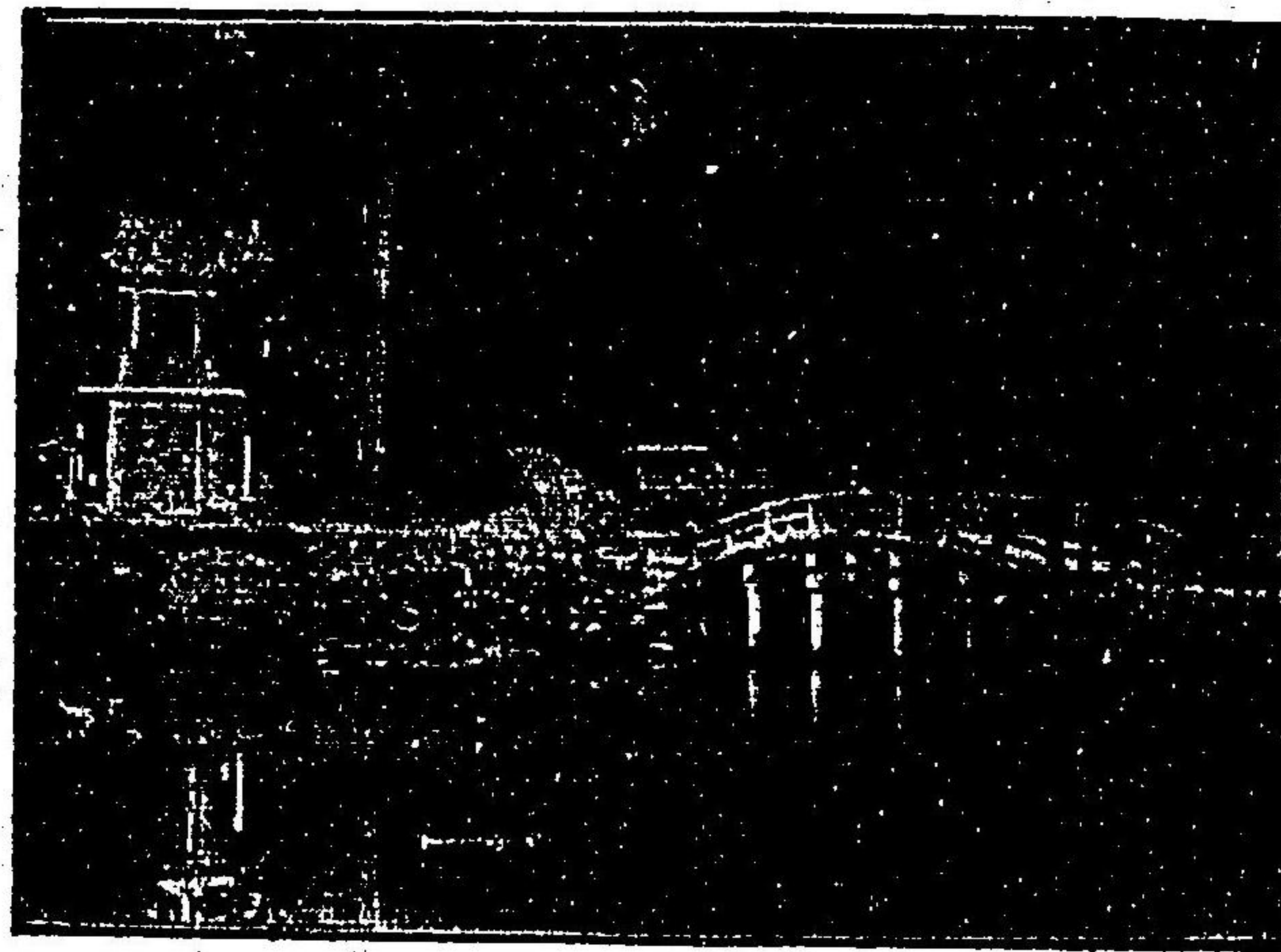
筑後柳河辻町

中江口又一郎

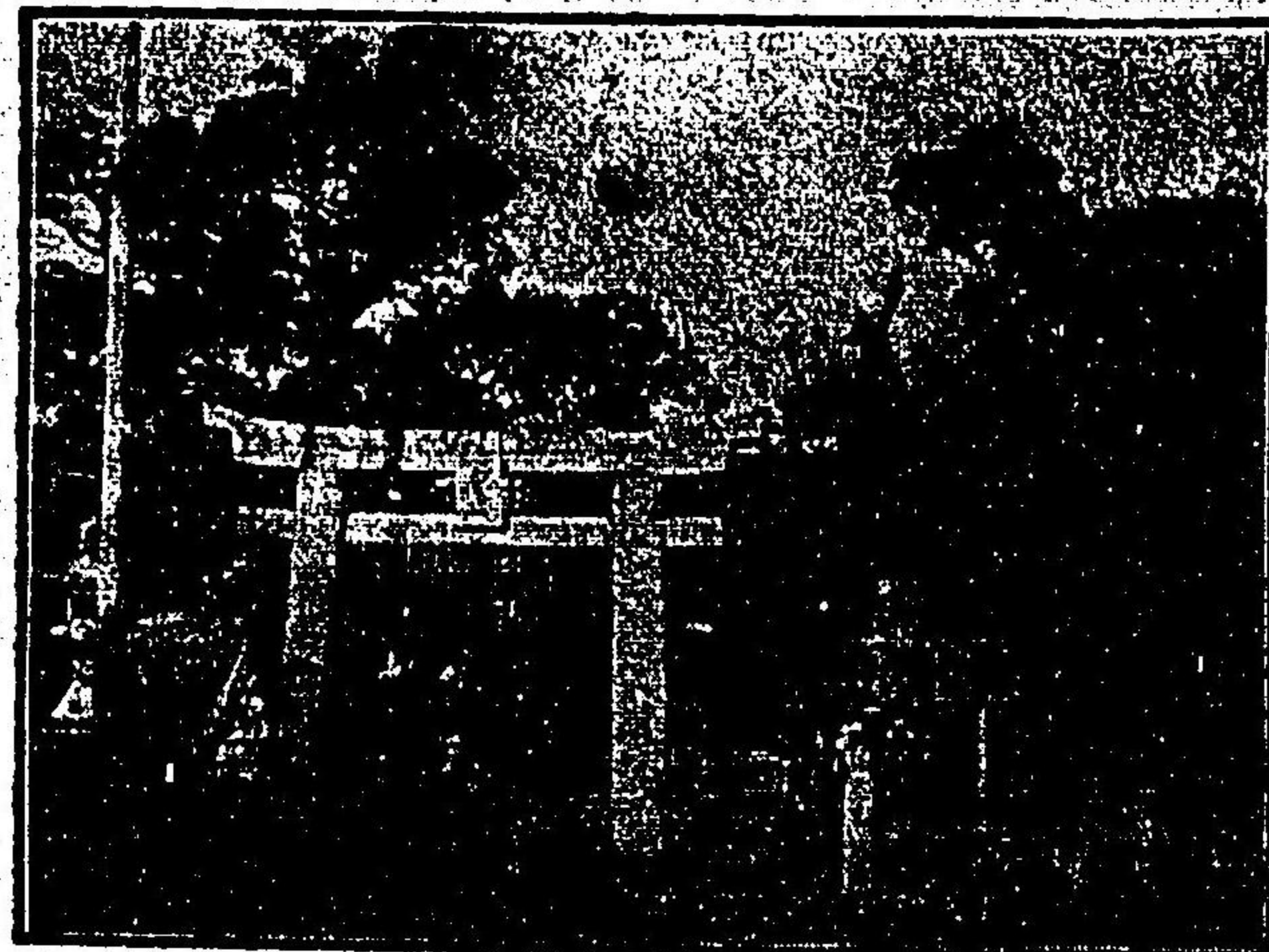
電話 略
特電 話一九番



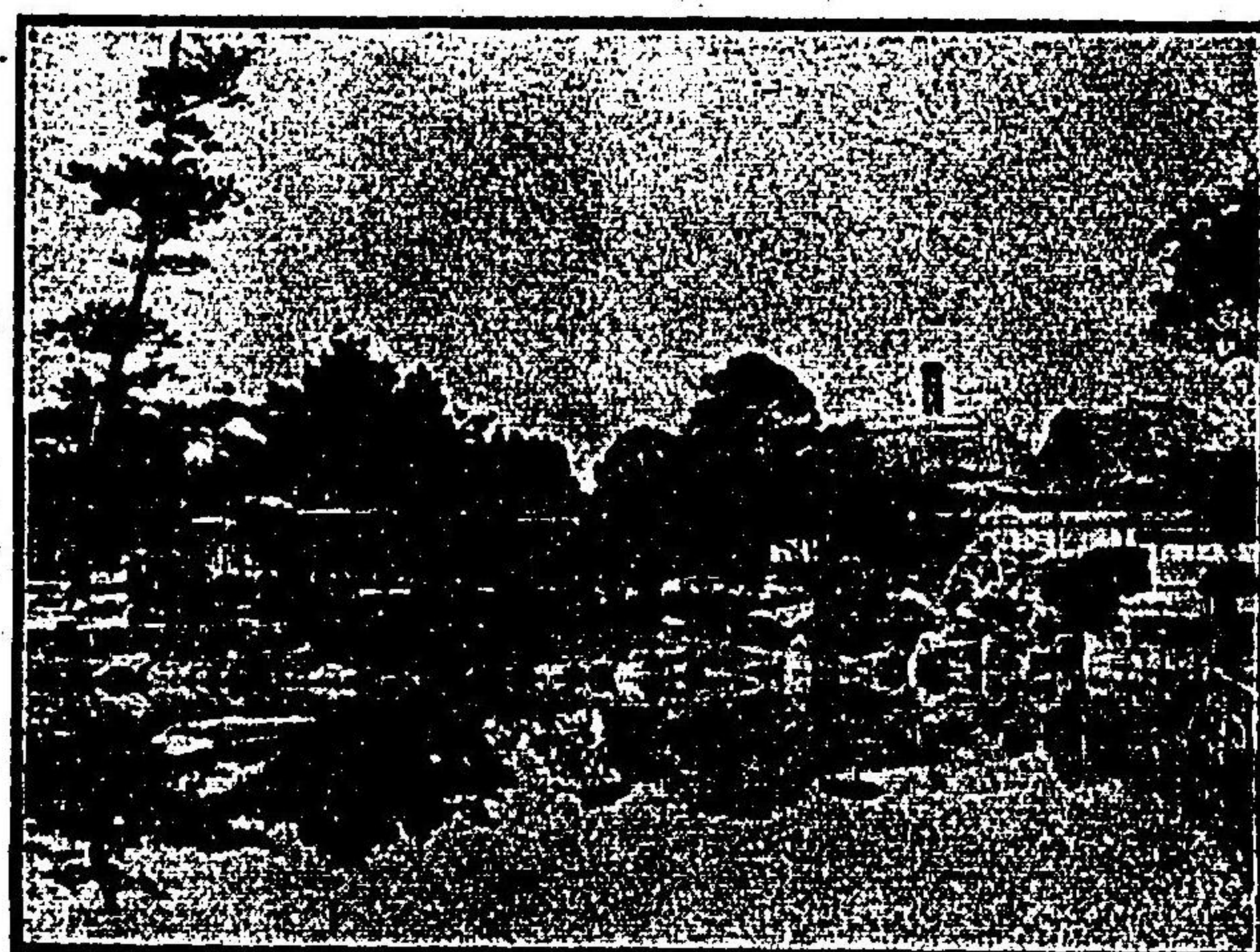
高良山玉垂宮



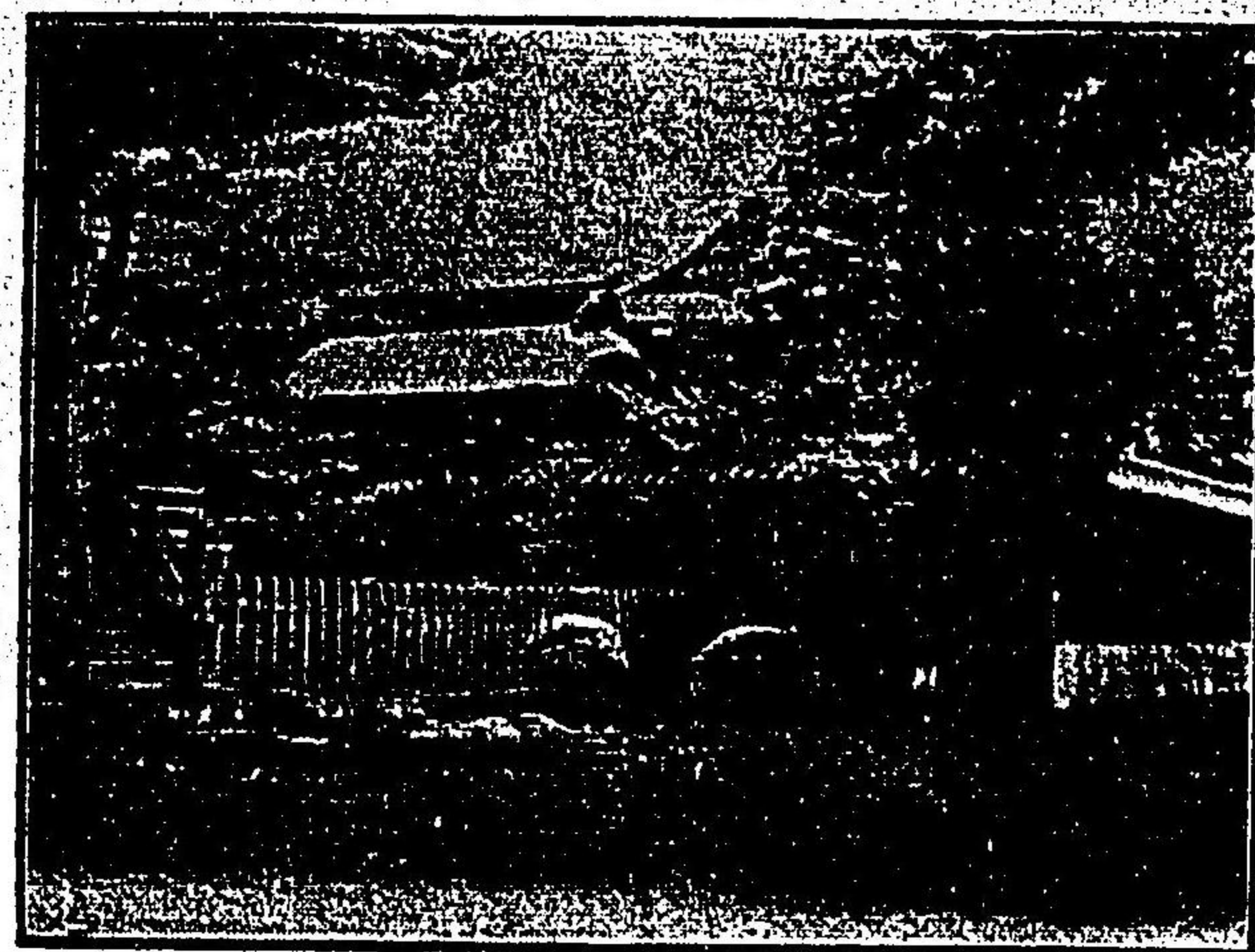
高良山御垂橋



宮天水米留久



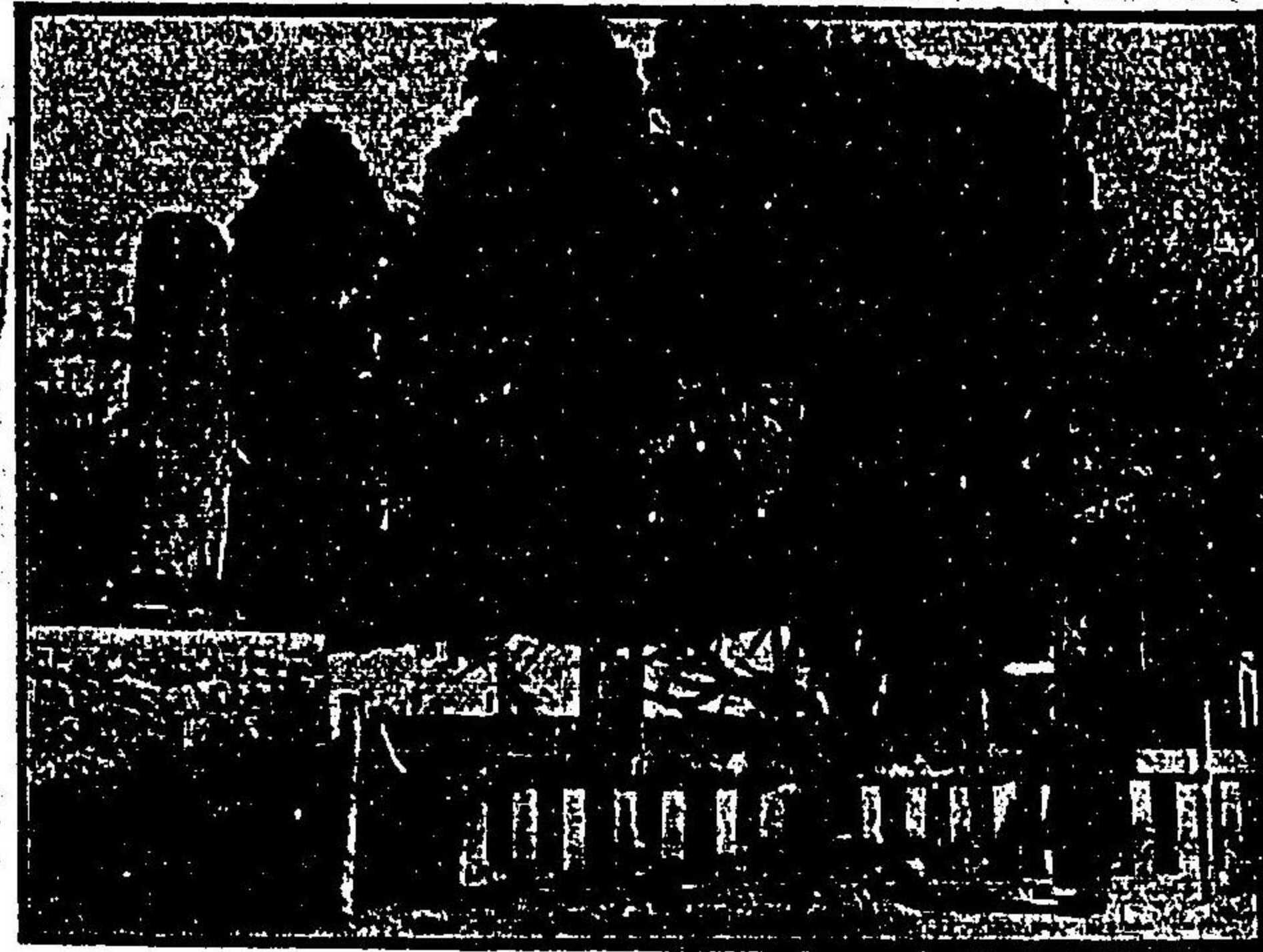
園公畑高河柳



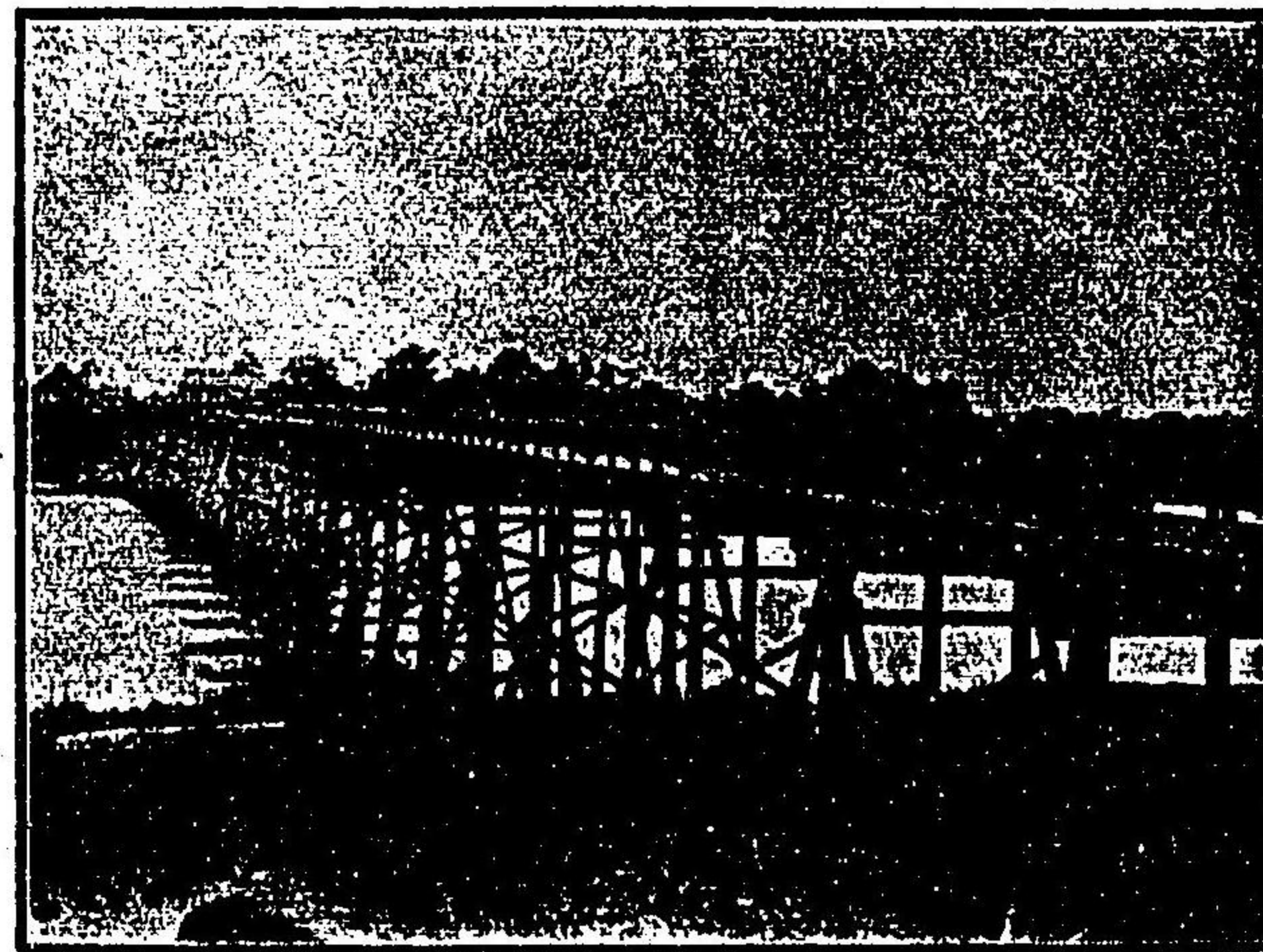
篠山神社ノ側面



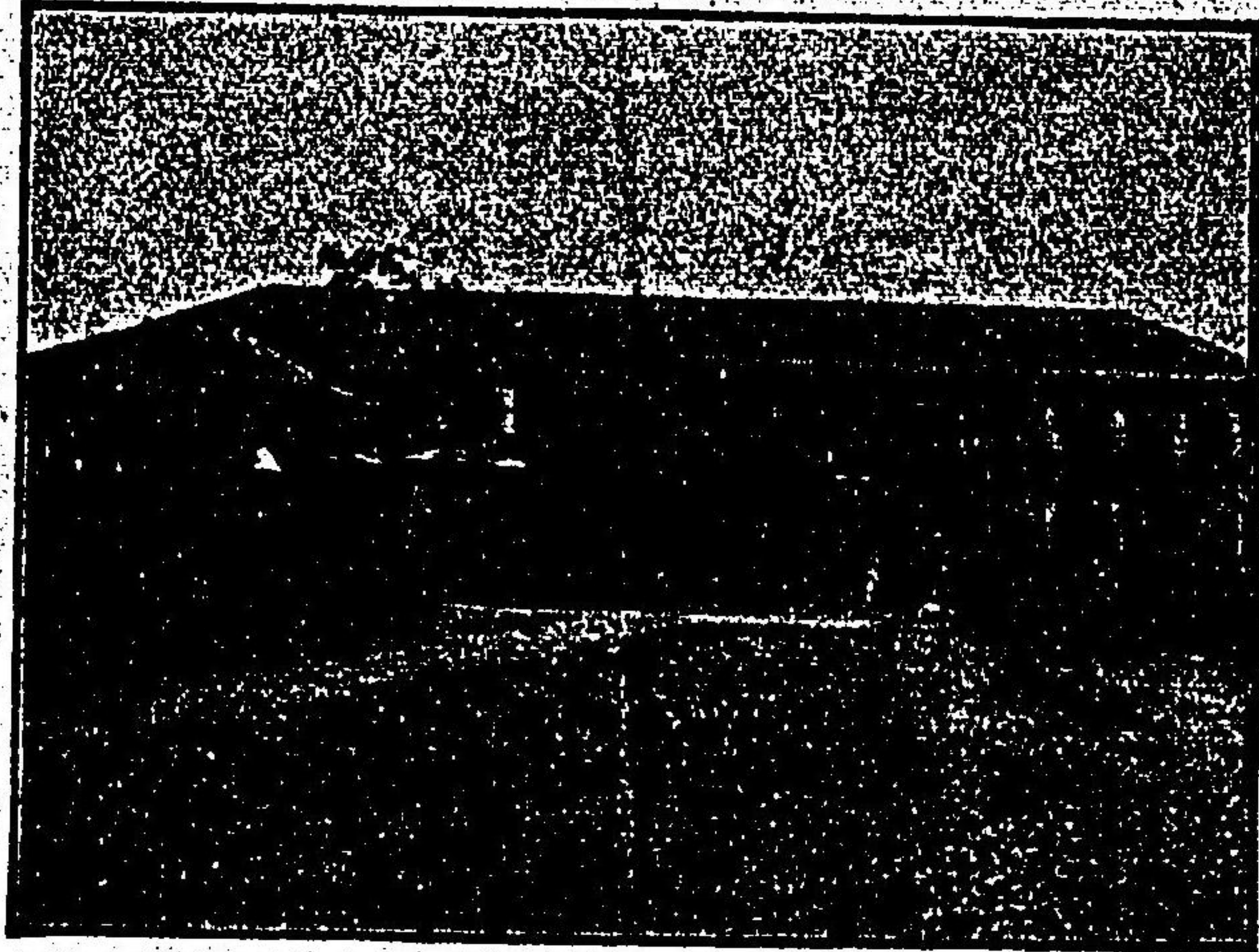
高彦九郎先生之墓



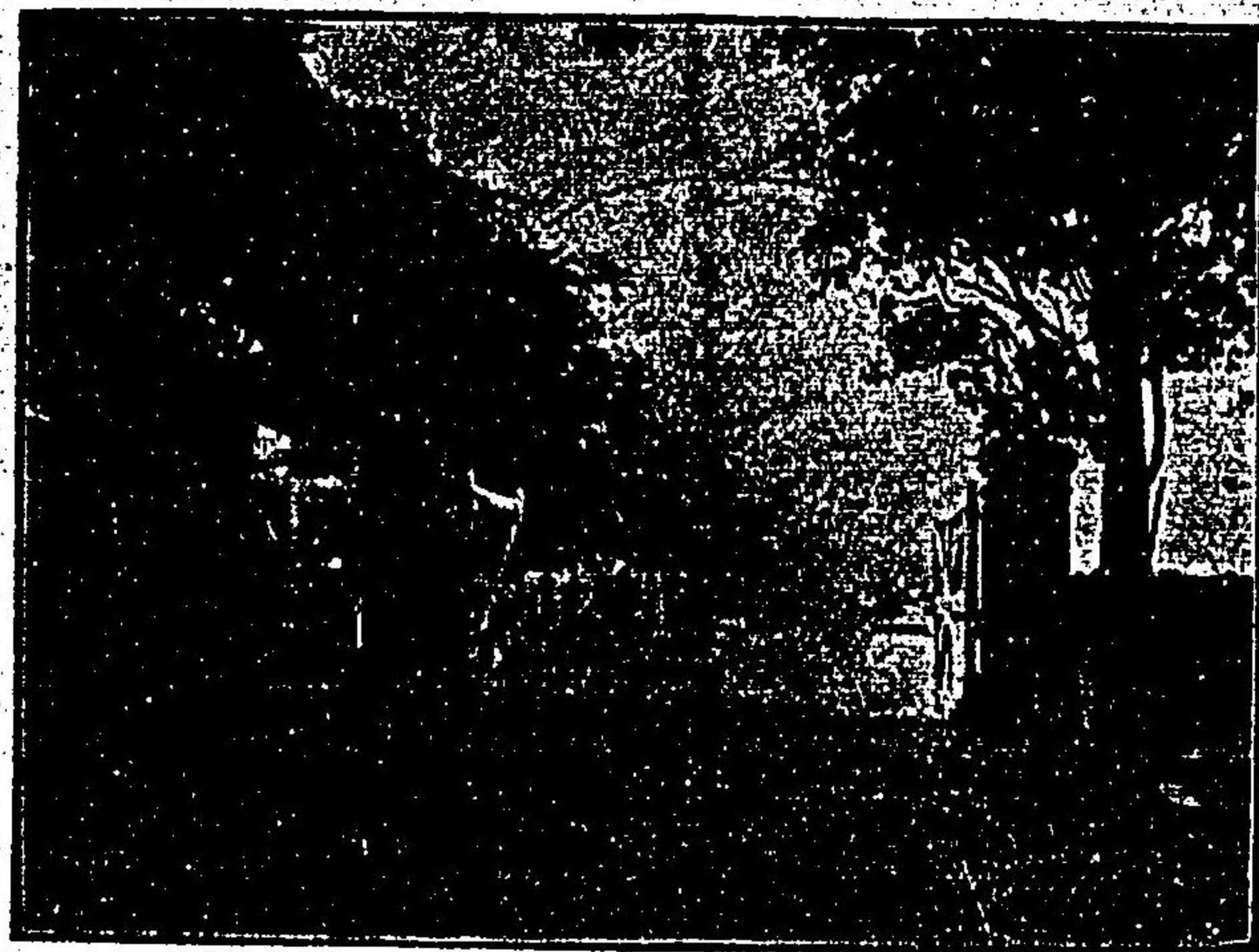
梅 軍 將



橋 陣 の 宮



部令司團師八十第



隊聯八十四第兵步

緒言

夫高く馬肥ゆるの秋、畏れ多くも一天萬乗の大君の親しく御督監まします、特別大演習は、吾が筑肥の野に於て、舉行せられんとするを見る、吾人の光榮のものか、是れに過ぎんや、吾人は此の祝す可き將た、念す可き、千歳一偶の光榮を迎ふるに、何等かの報ゆるべき處あらざるは、兼ねて期する處なり、即ち茲に

南筑案内記の一小冊子を草し、南筑一般の事物と大勢を収め、以て倍觀者諸子の旅伴に供せんとす。由來筑後の地たるや、地味肥沃にして産物に富み、工業又た隆にして、九州の首腦と言ふも敢て過言に非

明治何
44.11.7
内交

グロリア自転車



特命
御料

英國 英國 英國 英國
 皇信 陸軍 陸軍 陸軍
 室省 省省 省省 省省
 獨逸 陸軍 陸軍 陸軍

堅牢ニシテ優秀ナルグロリア

グロリアニシテラザレバ自轉車ニアラズ
 是レ實地愛乗者ノ公評ナリ

輸入元

森西ウイリアムス會社
 日本神戸及(倫敦)電話二二〇八番

快速輕快ナルグロリア

永久年間ヲ不問保險証付
 グロリア 九州總代理店 富松自轉車商會

久留米市日吉町一丁目軌道通り

永久保險証付

ざる可し加之古事舊蹟に富み紹介の任頗る復雜を
 極む然れども唯た憾むは編者の淺學菲才と時日の
 許さざるには讀者諸子をして充分なる満足を得せ
 しむる能はざるを憾む

明治四十四年十月

大森柳川誌す

肥料官塩石炭

石油石灰燐寸

卸商

八女郡羽犬塚驛

椿原商店

振替貯金福岡一〇三二番

履物商



津多摩第二支店

大牟田有明町四〇〇番

三池郡大牟田有明町

和洋紙商 田中貞次

電話百〇二番
發電マールサ

製靴店 末永澤治

三池郡大牟田有明町
四ツ角五軒目

自轉車商 上田兼太郎

並ニゴム人力車販賣

本店 久留米市兩替町

支店 電話二四八番
全市日吉町一
電話六〇六番

久留米市三本松町三十番地

株式會社 十七銀行久留米支店



電話百十七番
振替貯金口座大阪二二九七

久留米市片原町十八番地

株式會社 六十一銀行

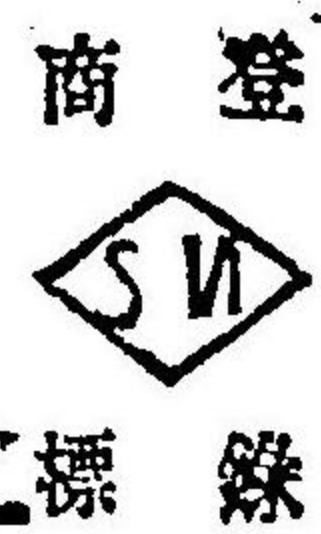
電話二二二九番
振替口座福岡二二三七五番

久留米市通町三丁目百七番地

八坂銀行久留米支店

(電話一二二一番)

食料諸鐘詰製造元
蝶印鐘詰製造元



西海鐘詰商會
福岡縣山門郡沖ノ端
振替口座福岡二二三三番

養老醬油釀造本店



林專太郎

筑後柳河町大字出來町

冬物新荷着

久留米市三本松町ノ下丁角

内田吳服店

(電話六三八番)

硝子板厚鏡商

久留米市通町三丁目

古賀慶次郎

電話四百一十番
替振口座福岡五四番

時計附屬品

眼鏡販賣

商

並ニ修繕

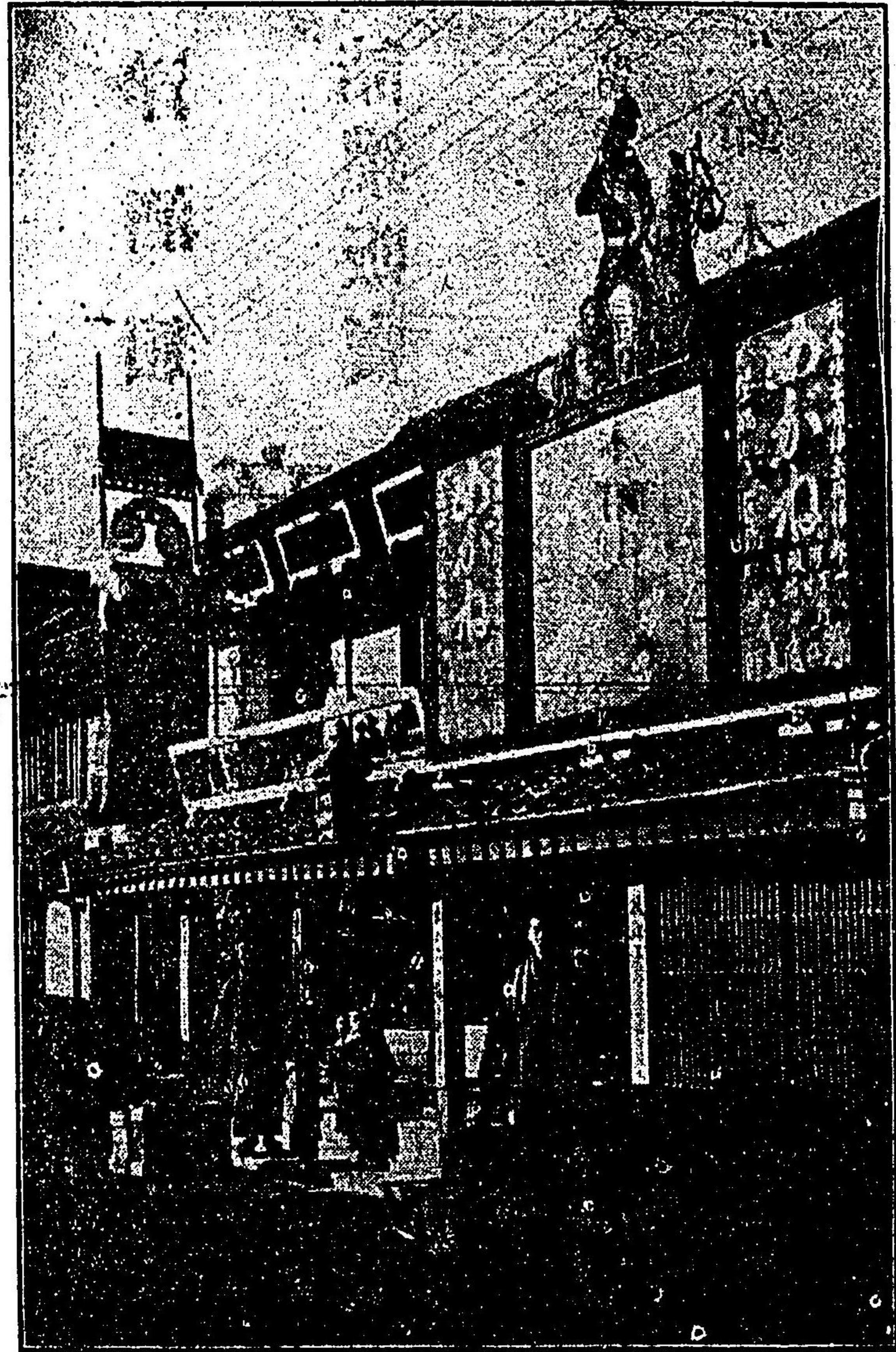
筑後大牟田旭町

田中時計店

久留米市通町三丁目
古賀慶次郎

三潞郡安武村 松本德資製

鏡眼両ねがめ銀金



店子硝屋口野目丁一町高瀬河柳

公債株式
現物問屋

久留米市三本松町

③ 堤龜次商店

電話(一六九番)

受信登録クルメツツミ
發信略語ツ又ハ(ツツ)

浮羽郡吉井町

堤出張所

和洋酒類

並詰罐販賣

商

久留米市外國分本町

鈴木文太郎

御旅館

並御中食御辨當

仕出仕候

久留米市外國分本町

米松館

館野口與

箆筒長持一式製造販賣

久留米市通町二丁目

近藤忠太郎

最新流行形

美術履物商

久留米市三本松町

向井繁太郎

小間物
化粧品

卸問屋

柳河辻町 松永商店

第十八師團

指定御旅館

浴室清潔

待遇町

久留米市外國分本町

明治館事

市賀佐太郎

杵下類一式
製造專業



杵下
印製造所

大盛堂

久留米市小頭町四丁目

久留米
名産

カステーラ

並ニ西洋菓子各種

久留米市細工町

卸小賣 つち勘本店

(電話八百五番)

全市通町一丁目

つち勘支店

建築ペンキ塗師

並ニ美術看板調製所

久留米市馬鉄通東久留米

二宗治三郎

多木肥料代理店

久留米停車場前

岩佐肥料株式會社

(電話二四一番)

通主 新製

人力車輪

川崎



秋葉製ニ限ル

久留米市

東京市京橋區銀座四丁目

本店 秋葉大助商店

電話長 二二八番
二二九番

佐賀市吳服町二二六

特約店 竹下商店

電話五四八番

久留米市新町貳丁目

久留米地方

特約店 中津留商店

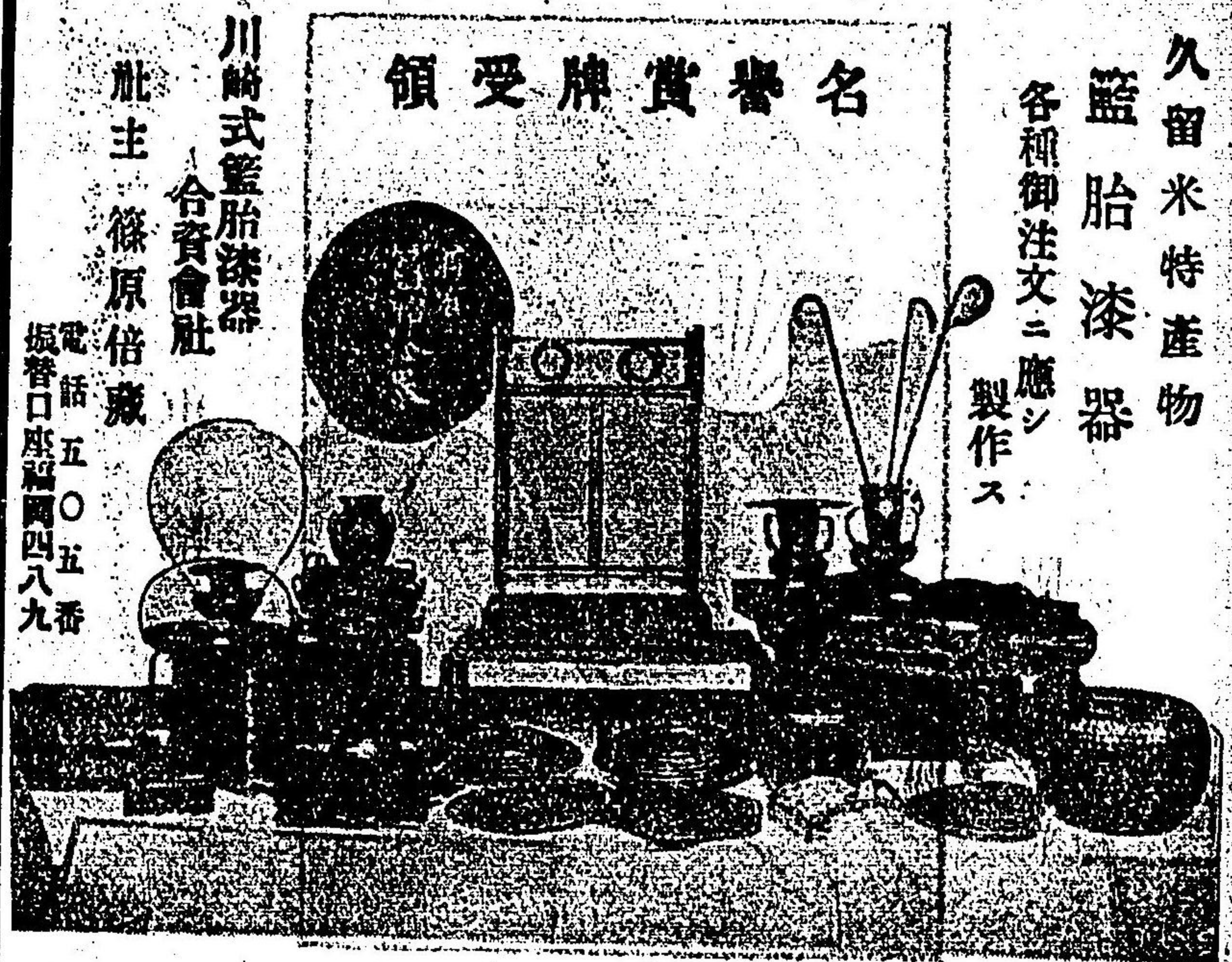
電話三三一番

久留米特産物

籃胎漆器

各種御注文ニ應ジ
製作ス

名譽賞牌受領



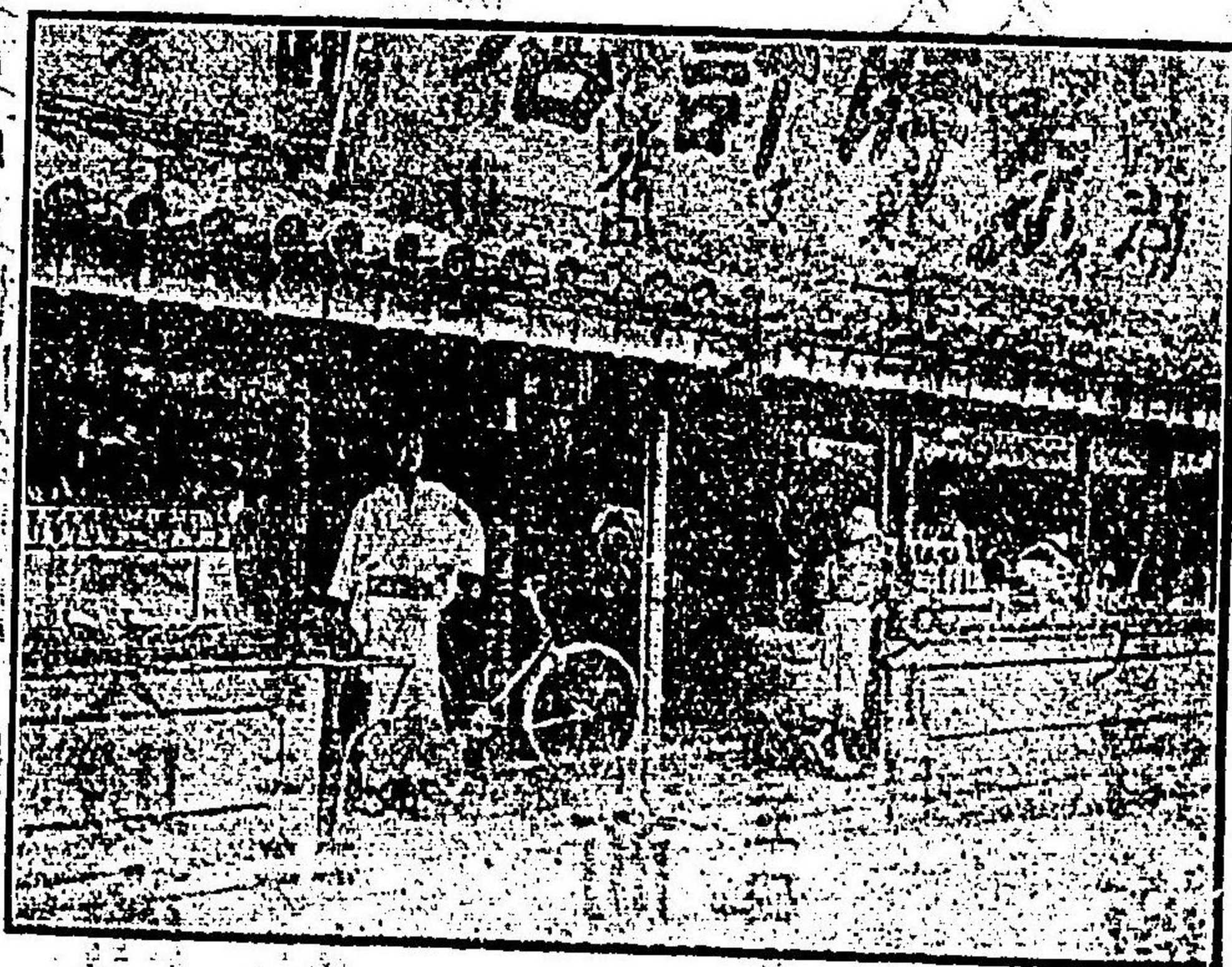
川崎式籃胎漆器

合資會社

社主 篠原倍藏

電話 五〇五番
振替口座福岡四八九

久留米市通町一丁目



蒲原時計店

電話 三三五

大演習
紀念

南筑案内記

大森 柳川 著

位地及び地勢

筑後は福岡縣の南端に位し、西は筑後川を離れて佐賀縣に面し、東は大分縣に隣し、南は熊本縣に接し、亦た有明海を臨む、

抑も筑後たるや獨り本縣が帝國に於て有數なる大縣として全國に誇るのみならず、筑後の地は人口産物等より論ずるも大縣たる可き其の主要の地にあり、本縣が其の名を成せる確かに筑後のある所因に因らざる可からざるなり、而かり筑後の地は地勢より案ずるも九州の中央に位し所謂九州の寶庫と稱する筑豊の連山は、東方に聳へ、筑後川矢部川其他大川小河縦横に流れて、土地豊饒良米を産し、其他産物及び産業としては三井、三瀧山門の清酒、久留米絨等勿論、枚舉に遑

あらざる所、加之、曩に十八師の設置、三池築港の竣成を見い、海に陸に風物頗に一段の光彩を放たんとするの秋明治四十年迄では筑後に於ける、交通機關としては九鉄の貫通するのみなりしが、筑後軌道を創始と共に三潯道軌、柳川軌道其他續々布設せられ、今將に九州中央を貫通し久留米を起點とし日田及び大分に至る大久線は其の完成を期して、目下其の議事を急ぎつゝあれば不日開通を見るに至らん觀し來れば現時に於て而に誇りとす可き位地にあるに今尙ほ此の發展の現象を認むるは吾が南筑人士の慶ふ可きにあらずや

久留米市

久留米市は筑後の西北端に位し東北は三井に接し三潯郡に面す、西は筑後川を隔て、佐賀縣三養基と相對す、田中吉政の嗣子主膳正の居城の頃より、漸次街衢をなし、元和元年有馬氏の封せらるゝに及び其規模を擴張し、人口漸やく増加し來るに至ると雖も筑後の主府として世人の知るより却つて緝りの久留米として世人

の認むる處なりき、然るに日露戦争後事物の發達と社會の進運とは此地に第十八師團建設の榮譽を見るに至り、交通機關も爲めに四通八達の促進を迎へ茲に及びて風物頗に一段の光彩を添へ來り、筑後の主府たりし久留米は、今や筑後と云ふ軌範を脱し、九州中央の大都會と數へられるの域に到達し、將た又た久留米市を起點とし日田を通じて大分に向ふ、大久線は着々其の歩を進めつゝ、あれば近き將來に於て確か現實せらる可きを期す、亦た久留米市が是に伴ふて奈何に發展するやは吾人が斷じて疑はざる處なり、諸官署には久留米區裁判所、久留米稅務署、福岡監獄久留米分監、久留米市役所、久留米警察署等あり其他實業團體會社銀行としては久留米商業會議所、久留米緝同業組合、久留米綿組、筑後改良織同業組合、久留米傘同業組合の各事務所及び會社の重なる者としては鐘紡久留米支店、六十一銀行、十七銀行支店、八坂銀行支店、牧牛會社、日本遞送、九州運輸會社、北野銀行支店、久留米電燈會社等ありて人口三万七千と註せらる

大牟田町

桑海變して海となるには實に此地に持ち來る可き諺なり、明治元年頃迄では、有明海濱の一寒小村として微か影を止めしに過ぎざりしが明治六年此地に鑛山局を置き、三池炭坑を開始せしより、實に著しき發展をなし港頭には數百の船舶、常に輻輳し、陸上は數條の鐵路を敷き以て石炭を運搬するに至れるより、諸會社の勃興するもの年々續々として起り今日の繁榮を見るに至れり、加之、曩に三井家の手に依りて竣工せし四ツ山築港は此地に非常なる急速の發展を促し來り三川村を合すれば昔日の倍加を示すに至らん、さわれ未だ時日の淺きと市の設備全きに至らず、戸數六千二百人口四万五千を有すると雖も市政を布く運に至らざるは吾人幾分の遺憾なき能はざるなり、官衙には大牟田稅務署、大牟田警察署、大牟田郵便局、大牟田電話交換局、及び三池銀行、鐘紡三池支店、三井物産支店、三井作製工場、三井造船所、私立三井工業學校、三池コークス製造所、三池土木株式會社、

三池魚類賣買株式會社、株式大牟田新市場、博多電燈會社支店、三井鑛山會社等なり

柳河町

矢部川驛の西二里山門郡内第一の市街にて人口一万二千を有し立花家の舊藩地にして西有明海に面し、海産物を以て著名なり、九鉄創設の際二三の反對論者の爲め九鉄を此地に迎ゆる能はず、幾分の衰微觀ありしが本年柳河軌道の開通と電燈の點燈を見てより多少の發展を來たしたるものなるが如し柳河立花城趾は西南八町の處にあり、田中吉政の創築にかゝり代々立花家の守城として堅牢の聞へ高かりし名城なるが、今尙ほ區劃正然として現はれ居れり、因みに記す立花伯耆の經營せられる中山農事試験所は東北壹里半三橋村中山にあり個人經營の農事試験所としては其の設備全國に稀なりと云ふ諸官衙學校としては山門郡役所、柳河區裁判所、町役場、柳河警察、郵便局、福岡縣立中學傳習館、郡立女學校、柳河銀行、

柳河軌道會社、興産株式會社等重なるものなり

大川町

三瀨郡西南の一隅にあり戸數千九百人口一万一千を有し三瀨郡唯一の都會にして工業の盛なる郡内に稀れ指物を以て有名なり、昔時は寂寥たる漁農村の一小部に殊に若津の如きは芦荻一面に茂生し僅かに漁農四五家ありしのみにて土地卑濕常に水害ありしに、後年堤防を築き、寶曆元年藩主有馬大慈公開港を計り羽犬塚町民を此地に移し免租地となし、他の移住を奨励せられしより人家愈々繁殖し、船舶の輻輳絶へず、米穀其他の集散地として、肥筑の要港たるに至れり官術會社銀行の重なるものを擧ぐれば三瀨郡役所、大川稅務署、大川町役場、警察署、三瀨銀行、深川造船所、日本セメント支店、三瀨軌道會社等にして彌生町遊廓は若津の西南一隅にあり俗に新築と稱して二十余戸の遊廓不夜城の光景を呈しつゝ、あり

城島町

三瀨郡の筑後川に沿ひたる中間にあり、戸數人口未だ多からざるも酒造家を以て世に知らる近郷青木島鐘ヶ江等ありて酒造家の非ざる地方なく灘酒に次ぐの名稱ある城島酒は即ち此地の産物なり

福島町

羽犬塚驛の東一里八女郡役所のある所にて郡内最も産物に富み、福島提灯、福島佛壇、筑後紙等は此地の産物なり

瀬高町

矢部川驛の西八丁山門郡の中央にあり、町の中央を矢部川貫流して下庄上庄の二字に分ち、清酒を以て著名なり

吉井町

筑後の最東部に位し、筑後より豊後地に向ふ、關路にあり、人口約九千を有し郡

中第一の市街たり、水清く風景に富み、市中豪家軒を並べ田舎としては頗る繁榮を極む、産物としては山産物最も多く産す

田主丸町

浮羽郡の西部に位し、吉井町と相對して繁榮を極む、産物としては左程列記すべきものなきと雖も、山産物酒等重なるのなり

北野町

三井郡の中央に在り、三井郡役所のある所、北野天満宮を以て名あり、産物としては、併其他農産物あれども、余り見る可きものなし

三池町

三池町は昔古三毛の名稱あり、柳河立花分藩のありし地にして、當町は十數年前迄では、郡内に於て、般賑他に並なかりしが、漸次隆盛に趣きつゝある、大牟田町の爲め、少なからぬ影響を受け、左なきだに、地寒僻にありて、交通運搬の不便

なるのみならず、一として産業の見る可きものなければ、町勢日に衰へ、大家富豪の白亜依然として櫛比し、當時の繁盛に偲ぶに足る

船小屋の鑛泉

羽犬塚の南二十六丁矢部川驛の河流に沿ひたる鑛泉場にして、風望清邪、清麗なと含鉄炭酸泉を出し、四時浴客絶ゆる事となく川には潑刺たる香魚の漁獲あり、特に夏季は螢火多きを以て世人に知らる、此の鑛泉は元と矢部川の支流、松永川の堤下に沸水せり、雀の地獄と稱し、禽虫往々其水氣に觸れて死するを以てなり、明治十九年本縣衛生課員此地に臨み、泉水を分折し好成績を得てより、有志者從來の規模を改め、舊態を一新す、此泉は貧血痔疾、消化不良、ヒステリー、胃病、一般神経痛、月經不調等の諸症に適し、内服外浴共に賞用すべきも主として飲用は効ありと云ふ

久留米城址と篠山神社

篠山神社は久留米驛東北七町久留米城趾にあり、藩祖有馬豊氏及び中興有馬頼永氏の靈を祭、俗に御靈社と稱して、境内は久留米附近の風光を一望の中に納め、遠く肥筑の山岳は、筑後の平野を繞し、筑後川の長流は南に向つて走り、嵯峨たる屏風山は、寶滿の山と相對して壯嚴を極め、風望筆者の筆には盡し難く、春秋の花月、避暑、觀雪多く此の境内に杖を引く者ありて、茲處に八景の勝ありと云ふ、即ち古城老松、柳原曉蓮、楓岡紅葉、江南曉鐘、箕山秋月、紫川煙雨、西山暮雪等是なり擱筆に望んで城趾略歴を示さんに、永正年中、小竹原を披きて城を築きて、篠山城と名づく、之れ本城の始めなり、其後天正年中、毛利秀包之を經營し、慶長庚子の亂、秀包西軍に党し、兵を發して大阪に赴く、鍋島氏虛に乗じて、來り攻む、已にして西軍敗潰す、徳川氏秀包を除き、田中吉政を移す、其子忠政大阪の役に病に臥し、出陣遲滯により、國除せらる、有馬氏之れに代り、二十一萬石を食す子孫世襲以て維新に至る

清水觀音寺

矢部川の東三十町東山村本吉の山腹にあり、平城帝の時大同元年慈覺大師の草創にして、其の規模洛東の清水寺に等しく、本尊に千手觀音を安置し、西國三十三ヶ所靈場の一たり、天文の兵亂に罹りて破壊に及びたるも、後立花宗茂再興せり、堂宇壯麗にして千村萬落の眺望に富み、四時參指者絶ゆることなし

善導寺

久留米驛の東二里半三井郡善導寺村にあり、建久二年聖光上人の創建する所にし、上人は筑前香月の生れ、天台宗の奥義に通じ、同人年圓光大師に淨土の法門を受け錫を此地に回し、熾に宗法を傳へ、建曆二年、宋國より善導大師の靈像を迎へ、嘉禎五年入滅す、初め上人の精舎を經營せんとするや、國司草野永平、七堂伽藍を建立し、建保五年須徳天皇善導寺の勅額を賜ひ、建治二年後宇多天皇より、又天和元年後水尾天皇より世々紫衣の給旨を賜ひ、又元徳二年後醍醐天皇勅

願題として、日城淨土最初梵刹及び祈禱の二額を賜ひ、文政十一年には仁孝天皇、上人に大紹正宗國師の徽号を追諡し賜ふ、安永五年本堂祝融の火災に罹り、天明六年悠海上人之を再建す、寛政九年三祖堂を慶安二年有馬家洪鐘樓、小書院、總門等を建立す、實に鎮西の巨刹として、四時善男善女の參拜絶ゆることなし

柳河三柱神社

矢部川より西一里八合柳河の東、山門郡三橋村高畑にあり、俗に新宮と稱し、高畑公園と呼ぶ、地境の廣濶なること、福岡縣隨一にして水流清澄、樹木陰森として、四時の勝に富む、文政九年立花鑑賢の創建する所にして、戸次道雪立花宗茂及び其の夫人の靈を祭る、境内に官祭招魂社あり、慶應四年陸奥新田坂に於て戦歿せし勇士八人の英靈を祭りしが、其後日清、日露の役に於ける殉國の忠魂を合祀せり、

國幣中社高良玉垂宮

久留米驛の東一里半屏風山の西端三井郡高良山に鎮座す、筑後四座の第一にして、祭神三座、中は玉垂命、左は八幡大神、右は住吉明神なり、此山は上古高牟禮山又は不滯禮と稱し、西北南の三面は肥筑原野山川を臨み、眺望絶佳にして、且險惡の地なり、往古英雄豪傑多く此地に據る、景行天皇の駐帶あり、繼體天皇二十年、國造磐井氏、此に據りて逆を謀り、南北朝の時征西將軍懷良親王菊池氏と屢々此地に陣し給ふ、文明五年以後座主良寛の孫兄弟隙あり、兄良寛は大友氏に、弟麟圭は龍造寺に通じて互に主座を争ふ、小早川秀包の久留米に封せらる、や、座主麟圭と隙あり秀包之と戦ひ克能はず、謀りて麟圭父子を柳原に誘殺す、文祿年中麟圭が季子尊能を座主とし、之より清僧となりて祭典を司る、明治四年社僧を廢し神官となせり

水 天 宮

久留米驛の西五丁瀬下町にあり、祭神は安徳天皇、高倉中宮、二位時子の三神な

り、此社は建久、承元の頃、千代松明神の創建なりと云ふ、千代松明神は、大和國石上布神社の祠官の女にして、壽永年中平家の一家と共に、安徳帝に扈從し、西國に落ち、三井郡鷺野原に住し、現今梅林寺に社殿を草創して、其後兵亂の爲めに、兵禍を避けて所々に遷座し、慶安三年有馬家、今の處に遷し給ひしものにて、風影筑後川の川岸にか、り非常に觀月は摘なり、

梅林寺

久留米驛の西三丁、京町の一隅にあり、江南山と号し、天和七年有馬豊氏移封の時、丹波福知山の瑞巖寺を遷し、大龍寺と改め、後又梅林寺と改む、之れ豊氏の父則頼の法諡梅林寺殿たるを以てなり、本尊は如意輪觀世音にして代々有馬家の菩提所なり、境内閑幽を極め、筑後川に瀕し、風光絶佳にして、梅林學堂、亦境内に置かれ數百の學僧を擁して教育に従ひつゝあり

將軍梅

三井郡宮ノ陣村大字宮瀬宮ノ陣神社の境内にあり、聽く正平十四年の秋、後醍醐天皇第九の皇子、征西將軍一品式部卿懷良親王菊地新田五條諸將の兵四万を率ひて、賊兵六と筑後國大原野に戦ひ給ひしとき、本營を此地に置かせられ、御手づから麗しき紅梅を御陣所に植へ給ひしが年を経るに従ひ、幹技鬱蒼として繁茂し、後世是を將軍梅と稱するに至りぬ、花時には老幹鬱蒼たる間に、清香馥郁として掬す可きものあれば、憂國勤王の志士及び文人墨客の杖を曳し者多し、尙ほ明治三十三年十月 皇太子殿下久留米市に 行啓されました時、恭くも此地に鶴駕を掛けさせ給ひて、新たに一株の松樹を御手植あらせられしに、其技は年毎に繁茂し、梅と共に昔時を偲ぶに足る、因に言ふ此社は往昔懷良親王の御陣所にして、其始め船曳鉄門、武田巖雄、森崎正義等の有志者相謀りて、矢部の山中に御奥津城を造し給へる、後征西大將軍の宮良成親王の靈を慰め奉らんとて、明治十二年頃三井郡合川村字宮盾の地に私に一小祠を建て宮を奉祀せしが同二十一年十二月

月今の地に移し奉りし者にて毎年十月廿四日祭典を営みつゝあり

北野天満宮

久留米驛の東北二里北野町にあり、社傳に依れば、後冷泉帝の時、天喜二年關白道隆の男藤原中宮大夫二男眞仙僧正始めて創建し、承應中藩主有馬忠頼、舊院に復せしめ、明和三年中、藩主頼徳殿門を潤色し、池橋を營造するなど終理を加へ今日の佳境を致すに至れり

風浪神社

縣社風浪神社は、三潞郡酒見村にあり、祭神三座、中は風浪神、右は玉垂命神、左は八幡宮、風浪神は底津少童命中津少童命表津少童命の三神にして、風濤を護るの神なるを以て、渡海濟川の士、來り祈らざるなく、繁榮今昔に劣らず

高良山神籠石

筑紫の一大奇蹟なる神籠石は、高良山々中にあるものを以て、最も著名なるが、

高良山玉垂宮の後阜より周回二十余町の間、高さ二三尺の石壘を廻す、其構造嚴然たり、古墳兆の石垣と云ひ、或は國造磐井の宅地なりとも云ふ、今其の内に愛宕神社を祭れり

三池神社

三池郡銀水村今山にあり、一名を大權現と云ふ、イザナミ、イザナギの二神を祀る、社宇の傍に三ツの池あり、一は大にして二ツは稍少なり、四時水の増減なく、常に清水を湛ふ、

三池家譜に曰く

三池は初め三毛に作る、人皇八十二代後鳥羽院の御宇健久三壬子年三月十三日、三池郡今山嶽（一名三池山）は一夜の中大小の池三つ現出し其他不思議多し、是に於て、領主左近小將三毛氏源師眞、頼朝公に奏聞し、勅命に因りて三毛の文字を三池と改むと爲す

是より夏季天旱に遭へば、里人即ち雨を祈るに、十五歳以下の兒童をして、池中木葉を掃除せしむ、時ならずして、大雨降り、以て早害を免るゝを得と、其の靈驗著しきに依り、池の傍に社宇を建て、大権現と崇め奉る、三池神社即ち是なり、此由を傳へ聞きて、毎夏種々の器を携へ、遠近より參詣する迷信者は、池水を乞ひ受くる者頗る多し

後征西將軍良護親王の陵

八女郡矢部村東南の深山にあり、親王は弘和年中、懷良親王に續きて西下し給ひ、菊地、阿蘇、五條等肥筑勤王の志士を指揮し、皇威の挽回を期し給ひしも賊軍強勢終に征簇東する能はず、恨を吞んで此深山に薨し給ふと、其陵墓は幽谷の中に埋没し、五百余年の星霜を経て、之を發見するものなかりしが、高良玉垂宮の神司船曳鉄門、之を慨して官に告げ、明治十一年親王の陵と定め、陵守を置く事となりしか、其周圍喬木森天を蔽ひ地形は後に御前嶽を負ひ、前に矢部の湖流を

擁じ、潺湲の音を聞く可し

太刀洗川

三井郡山隈原兩筑の境にあり、正平十四年八月、菊池武光征西將軍懷良親王を奉りし賊大宰小貳と大原野に戦ふ、此日未明より接戰薄暮に及び、一進一退大小三十余合時武光馬仆れ冑破る、然りと雖も勇氣倍々振ひ、敵將を屠りて、其の冑を砂り、且其馬に跨りて、縱横馳走す、六万の賊軍遂に挫折せり、武光追撃して此地に來り凱歌を揚げ、徐に血刀を洗ふ、依りて往時より此場を菊池渡りと唱へ此川を太刀洗川と稱す、然りと雖も世人其の果し那邊なるやを知らざりしかば三十年當時の部長渡邊村男氏紀念碑を建て之を表彰せらる

高山彦九郎先生の墓

久留米驛の東十六町寺町遍照寺にあり、彦九郎先生は上野細谷町の人、林子平、蒲生君平と共に寛政の三傑と稱せらる、人となり、軀幹魁偉、眼光爛々として、人

を射つ、隆準巨に音聲鐘の如く、胸中常に不穩の狂熱を蘊み、感情極めて、醇烈、氣一たび旺する時は、眉揚りまなじり裂けてしつた風を生じ、平生劍術を好み、修養具さに至る、好んで書史を讀み、章句を修めず、大義に通するのみ、懷抱あれば即ち吟じ、先生草叢の臣を以て王室の衰微を憤慨し、東奔西走、回天の偉業を行はんとし、事志と違ひ寛政五年七才、聖明の世に逢遭し正四位を贈らると雖も菩提所未だ雜草繁茂するあり、依りて久留米の元老田中順信之を悲みて多年奔走しつ、あり

井上傳子略傳

久留米の今日あるは井上傳子の大に力ある所、傳子天明八年久留米市通外町に生れ、幼にして新奇の織物を製せんと、千思萬考或時白糸を絞りて、之を紺染とし、其糸を解きて織り、試みしに甚だ妙なり、人之を名つけて霜降、亦是縠織と云ふ、傳子發明の功あるを喜び、此織物を盛んならしめんとし、加壽利と唱へ販賣す、

是れ實に久留米紵の起原にして、傳子十五才の頃、略其功を収めたるを以て、之を習ふ者二十余名に及び、其の三四十才頃に至るや、既に三百乃至四百名の職工を集むるに至れり、之より久留米紵の名、天下に聞へ以て今日あるを致せり、明治十八年水天宮境内に記念碑を建設し、次て同三十一年篠山町に一大記念碑を建設して、其の功蹟の偉大なるを賞す

日向神の奇勝

筆者久しく此地に探勝の遊を試みんと思へども、未だ其の意を得ず、茲に讀者の前に其の責を果たす能はざるは頗る遺憾とする處、然りと雖ども此地に通ずる友人に依り、幾分の責を盡さんに、日向神は、大日靈尊、二々杵尊、木花開耶姫の三神を奉祀せる靈地にして、笑兒橋、不動岩、出來淵橋、淵引の岩、破風の岩、矢櫃岩、弓掛岩、劍岩、鎧岩、鏡岩、螺貝岩、天戸岩、小戸穴、小戸窟、龜尾岩の奇勝ありて、實に一望萬態天下の奇勝として誇るに値ひすと云ふ、又白糸の瀧は日

向神の山域にあり、飛泉直下の果る處ろ奇岩怪石縱横に羅列され、其の景狀は末見の士にては到底覺り難く、實に此地の風光は天下の勝地、耶馬溪に劣るまじと云ふ

黒崎

黒崎と言へば人と未だ多く知らざる處なれども、風景絶佳近郷に稀れなれば、歴史的由來あるにあらざれども、茲に照介せんは、三池郡の銀水村甘木連山の海に突出せる尖端にして、巔上に公園あり、玉垂宮の神苑に連る、規模大ならずとも樹木の配置よろしく、就中鬱茂せる青松白砂と相映じ、絶壁の下、又奇石怪岩の幡屏するありて、肥田沃圃の間、白亞草屋雜然として交り西方一面は是名だたる筑紫の海にして、寄ては返へす金波銀波の裡に、あまの小舟三五浮べるも亦趣きあり、多良の峻嶽温泉の高嶺、指呼の間において、恰も塵外無垢の仙境あるの感あり

二ツ川の萩

矢部川驛西一里二合の處にあり、柳河より舟を雇し、矢部川を溯ること一里にして、紫雲水を覆ひ、白雪兩堤を埋るを二ツ川の萩となす、此地は古來觀月に於て有名なりしが、明治三十二年柳河舊藩主立花鑑寛氏、此地の風景を永遠に保つ可く、萩數千株を移植し、今日の大花園を致すに至れり

朝鮮松原の松嶺

立花宗茂公朝鮮より引き揚げし際に、移植したる由來の下に依り朝鮮松の名あるとかや、今は蕭々の音と高し、矢部川驛北半里、矢部川の川沿にありて、風光自ら詩的をなし、影は流れ去る清澄の河水に映し老松の影は、昔日の勇士の面影を偲ふに足り、清水の山嶺は遠く雲烟の間に屹ち、北に脊振は雲際に頭を現して人家遠近に部落をなし、一帯の田園、山裾まで連り、其の景其の趣き、吾人蕪筆の盡し得ざるを恨む、されど夏の曉、秋の宵、杖を此地よ曳かば、曉氣松の梢より來りて、芳襟衣袖を露はし、月光は緑の梢を漏れて、流水黄金白金を掠し、梢の松

頼は悉々彈するが如く、虫聲亦叢に和して、興湧き詩趣盡くるなからん、擲筆に言ふ此地亦た筑後の盤の名所として人多く知る

四ツ山岩ケ鼻

三池郡三川村四ツ山にありて、郡中三勝地の一なり、三里の南方に突起する五嶺中、其の重なるもの四なるを以て此名あり、西南を望めば、温泉多良の峻嶽高く天に聳へ、其他峻岳重疊して水天を限る、鳥原の濱は、指呼の間にありて、亞屋隠見炊煙香渺々漁舟の往來真に一輻の畫圖たり、沙砂遠く走ること里許、巖石重疊を以て成る、岩ケ鼻と稱するもの即ち是なり、其の形狀千種万様にして、籠虎の勢象ケ鼻、鶴の翼、鷲怒の狀、牛蹄或は馬蹄の如き、或に蜂房の如き、其の奇絶名狀す可からず、近時四ツ山築港の爲め幾分の景を殺きたりと雖も、尙夏季遊涼の地たるを失はず

臥龍梅

三池郡三池山の半腹、普光寺の境内にあり、延々十數間に及び、花淡紅香氣馥郁たるものあり、其の西南遠く有明海を隔て、温泉、杵島の諸山と相對し、眺望の美、遊覽の富、蓋し近郷に稀なり、花期に至るや、文人墨客の杖を曳くもの頗る多し

行在所に充てられし明善校

行在所に御決定ありし、縣立中學明善校は久留米市京町にあり、最初細井平洲氏の門人なる儒者樺島石梁氏、並よ有馬公より抱へられ、熊本より來りし左右田尉九郎氏等の經營に成り、西依成齊氏の門人なる樋口甚藏氏が、黄金三百兩を寄附して、天明八年二月創建に着手し、同年十一月十二日竣成し十二月九日開校となりしものにして、維新の際には此校より幾多の勤王志士を出し、明治となりては、仁田原、松石の兩陸軍少將、倉富朝鮮總督府司法部長、日比翁助、松下丈吉、城數馬氏寺其他幾多の名士を出したり、猶又明治十年三月、西南役の際大本營とな

り、有栖川宮熾仁親王殿下の入らせられたる等光榮ある歴史を有し、更に亦た今
回行在所に充られは、爾來永久に同校の名譽とする處なり、因に聴く今回久留米、
柳河、福岡、佐賀、小倉、各藩勤王家の遺墨又は肥筑兩地にある書畫刀劍額を天
覽に供し奉ると云ふ

三池炭坑

三池炭坑は、今を去る四百四十年前、文明年中に、農夫傳治左衛門なる者の手に
依りて發見せられ、燃料に適するの所因を以て、里人相傳へ用途に供せるもの發見
の端緒にして、(今を距る百九十二年)柳河の藩士小野春信采地平野山に稍組織た
ちたる開坑を試み、爾來藩主の其の業を營みつ、ありしが、明治六年七月官有に
歸し、同二十一年四百萬圓を以て三井家の所有となれり、現在二十六鑛區を有し、
其の坪數は三千九百二十五萬三千二百三十七坪にして、六坑に區劃せらる、大浦、
七浦、宮の浦、勝立、宮の原、萬田等にして、炭層は五尺乃至二十五尺に達し、

平均八尺の炭層を保ちつ、あるに依り、八尺炭と稱す、其の品質佳良にして全國
に其比を見ず、而して採炭は専ら自家用の鐵道に依りて三池港に送致し、海路四
方に輸送せらる、現今各坑を通じて坑夫六千余人、四十一年に於ける出炭高は百
五十二萬五千四百八十噸、價格六百七拾九萬參千參拾八圓の驚く可き産額を見つ
ゝありと云ふ

聯合會加盟組合

曩に縣下に於ける輓近社會の趨勢は實業の發展を促し實業者の團結を認むるを以
て、實業者の十三團體相聯合して、實業團體聯合會なるものを組織し一般實業の
發展促進を計る機關とせしが、目今筑後地内より加盟せし組合は左の如し

久留米綿同業組合同市莊島町、筑後木蠟同業組合同市京町筑後豐藍同業組合三
井郡御井町、有明水産組合山門郡沖端村、筑後紙同業組合八女郡福島町、久留
米新同業組合久留米市兩替町、久留米傘同業組合同市篠山町、浮羽郡苗木業組

合浮羽郡水分村、筑後製粉同業組合同郡羽犬塚村

久留米商業會議所

久留米商業會議所は、明治三十三年法規の下に設立せられたるものにして、専ら商工業の發達に必要な方案を調査し、又は法規の制定改廢に係る意見を行政廳に開申し、或は行政廳の諮問に應答することあり、常に斯業の狀況及び統計を調査し、一般の參考に供する等、苟も斯業の發達に必要な施設をなすがためには、種々の方案を講究し、之れ實に斯業者の依りて以て商工業を、企圖する所因にして當市商工業者の唯一の機關たり

筑後の農業

▲筑後の米作 本縣が全國中新潟、兵庫に次ぎ第一位に属するは、既に統計の示す處ろなるが、三洲を一に擧げ三池山門八女夫れに次ぐ、思ふに山門、三洲浮羽の地たるや所謂筑後の平野にして筑後川の流る、あり、灌漑に最も便にして

久留米市通町三丁目

二宮帽子 二宮嘉助

(電話二六九番)

課 各國藥品、醫科器械
目 處方調劑、衛生材料

橋本藥局

(電話四四四番)

久留米市三本松町

局主藥劑師藥學得業士

橋本恒二

久留米市通町一丁目角

板硝子
洋燈類
其他硝子一式

平岡次平

(電話一三〇番)

新案 千年傘
特許 富士傘
發賣元

久留米市通町

利傘卸商 藤島久吉

並ニ原料品一式

電話一二二番
福岡振替二〇五番

外 化粧品類

久留米市日吉町一丁目

松田商店

肥 團扇卸小賣

西洋家具室內裝飾品

久留米市細工町四十五地番

醫院用

椅子

理髮用

寫真用

卓子

製造 園田商店

其他諸官衙銀行會社器具類一式

久留米市通町一丁目

家具卸商 **小川喜一郎**

電話八〇八番

調 刻 看

板 製 作 所

久留米市莊島町馬鉄通り

大 場 堂

病院 醫師 **處方調劑**

萬國藥種 醫療器械

筑後國柳河町郡役所前

藥劑師 **川野三郎**

電話二三番

全

履物花緒 製造卸商

本園健太郎

柳河辻町

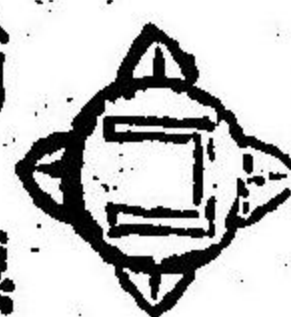
三潞郡蒲池村字立石

本園工場

食料諸罐詰製造元

福岡縣筑後國柳河町

登錄



興産株式會社

商標

電話一八九番
電路(コサン)又(ハコ)
福岡振替口座二一〇七番



久留米市日吉町有馬町

染物業 酒井鉄次郎

矢部川停車場前

御料理 旭屋旅館

東洋樂器株式會社
各種樂器取次所

商 木下福松

筑後柳河惠美須町

諸官術一式
學校用
椅子テール
製造販賣

御菓子調進所

筑後山門郡柳河町
字中町



商標 常盤本店

高田善太郎

筑後柳河瀬高町(郡役所東)

萬小間
明化糖品類
治足袋卸



森田商店

生魚問屋

柳河町 島田六左工門

釀造用品

吉野並高良山桶木

正宗酒瓶類

河内木綿搾り袋

羽獅子印青箱入サリナル酸

純粹麴種もやし

改良四斗樽製造

其他大小道具器械附屬品一式製造販賣所

久留米市繩手町

山 内山敬太郎商店

電話六百二十一番

東京六三七七番

大阪二七九七番

福岡五七四番

振替口座

時計風琴
蓄音器
修繕

附屬品眼鏡商

並ニ懷中電燈特約販賣

久留米市外花畑
花畑郵便局西隣



宗野支店

品目

- 新形中山
- 中折烏打帽子
- 毛布膝掛
- 嶄新レース男女首卷
- 莫大小各種
- 手袋沓下
- 洋服
- 其他歐米嶄新ナル雜貨化粧品一式

和洋
冬物各種品揃
雜貨

久留米市三本松町之下町

田中洋物店

電話二百六十一番

自轉車
並ニ附屬品
販賣修繕

久留米市馬鉄通

田中自轉車商會

大牟田町字本町五丁目

田中自轉車支店

久留米市外國分

田中貸自轉車支店

和傘

久留米市篠山町

籃胎漆器

赤松商店

(振替口座福岡五一六番)
(電話 二一一一 番)

各國銘茶

並ニ御茶包所

久留米市米屋町

吉川春湖園

新式蒸氣應用機械製造

米味噲製造元

柳河出來町側

一治吉開治吉

佐世保市港町

吉開支店

筑後柳河出來町際長命寺原

商標 余様味噲

製造元 石橋小二郎

九鉄矢部川驛前

綿製造業 河口竹次郎

電話(二一五)

筑後柳河町字瀬高町三

和洋商 野田徳次郎

筑後柳河中町

萬小問物卸

教育玩具問屋 倉田藤吉

内外化粧品

土地肥沃 而して八女は山嶽多けれど矢部川の横断するありて、共に農業非常に盛なり、山門三瀬三池八女の四郡に於ける、平均收穫高を擧ぐれば實に左の如し

郡名	種米	稲米	合計
山門郡	一、五〇七	二、二九一	一、七〇三
八女郡	一、三三〇	四、三三四	五、一三三
三瀬郡	一、四四九	三、三三九	一、九一七
三池郡	一、八八三	六、八四四	七、九六九

更に近年の農業の趨勢を見るに先づ作付反別に於て、去る明治二十六年に於て、十萬五千六百七十五町なりしもの、四十年よりは十一萬二千五百二十九町となり、即ち十五ヶ年間は四千六百九十八町余の増加を示し、其の收穫を見るに二十六年に於て百二萬三千二百二十一石なりしもの、四十年よりは二百三十萬五千二百一十四石を以て算せらるゝに至る、勿論米作の如何は、天候の不可抗力に支配せられること大なるものなるを以て、其産高如何に依り直に其の盛況不況を斷じ

得可きものにあらざるも、作付反別僅かに十四年間に於て五千町歩餘、即ち二十分の一計りの増加に過ぎざるに収獲に至りては明治三十六年は明治二十六年に比し、實に百三十二万四千九百三石の増加、即ち二倍以上激増せるに徴し農事の進歩發達を察するに難からず、然りと雖も是れを吾が筑後一圓の統計を示して説明せんと欲したるも調査其の運びに至らず、止むなく縣の大勢に取りて説述するは頗る遺憾に堪へざる處なり、前述の激増は何に因るや、是れ大に説明を要する所なり、吾人は今其の一二を説かんに

▲農事の改良 第一は耕地整理の結果なり、耕地整理は當初其の奨励普及を圖る目的を以て、去る明治三十五年以來、一郡に一箇所の模範耕地整理を行はしめ、其の補助金として、其の費額の二三割を縣より交付されたるが、農事當業者は、其の有益なるを覺知し、三十九年には十九ヶ年面積四百五十一町歩となり整理費拾八万參千五百貳圓を要し此の結果として斯業獎勵上大に見る可きみのあり、

三瀨八女山門三池の四郡外三井早良糸嶋等の地内にして、面積二万二千二百五十町歩の整理見たるなり、激増の源因としては耕地の整理を第一に數へ來るも第二第三順次に示せば稻の正條植、糊種灌水撰實行、螟虫驅除方の周到、肥料改善の進歩、農事教育の發達等に大なる起因を有する者にて其の方法手段に至りては、斯業者の既に認識する處なれば茲に省略す

久留米 緋

久留米緋は、實に久留米市の生命にして久留米は久留米緋ありての久留米市乎、久留米ありての久留米緋乎、吾人は果して其の何れに誇す可きや知らずと雖も、久留米の眞隨たるは吾人が茲に特筆大書して疑ふ可からざる處なり、然り久留米緋も社會の進運に従ひ今はありと雖も、其の創始を辿り見れば實に微々たりしものにして、天明元年、井上傳子の發明に係り、當時僅に地方の需用を充すに過ぎざりき、以來大塚太造、牛島ノシ等、繪緋、小緋等を發明してより、大に發達に

促し來り、時の藩主、又開成方を設けて、之を獎勵し、維新後機業者仲買者相踵に起り、苟も女子ある家は、機序の聲を聞かざるなきに至れり、西南の役軍人、軍属の之を購ふもの多く、爲めに粗品を販賣し、俄然信用を失墜し、明治十三年綠藍組、千年社起りて頽勢の挽回に努め十六年士族の授産金を以て、赤松社を起し、織機に改良を加へ精良なる製品を出し、模範工場として賞揚せられ、久留米緋の名順に光彩を加へ來れり、十九年綠藍組、千年社を解きて同業組合を組織し、三十四年緋鑑定所を設置し、其の間變遷を重ね今日の盛況を呈するに至る、最近の調査を統計を以て示す能はざるは吾人の煩る遺憾とする處なれども、去る四十年の統計を一般及び郡部に分ちて示せば製造戸數千四百七十三職工四万七千七百九十人にして、其の産額價格は左の如し

産額五九、〇〇〇、價格二、三六一、三三三 三瀨郡六八、二四三 三井郡三三、〇三三 八女郡三三、二六三 浮羽郡三六、三三三 久留米三、三三三

▲筑後の酒 全國酒造業に於て本縣が兵庫縣に次ぐの名聲あるは、吾筑後ある所因にして、吾人の最も誇りとする所なり、四十年の統計に依れば、醸造高三十一万八千三百九十四石、此價格壹千六拾八万七千八百八拾五圓に達し、明治二十二年の十三万餘石に比較すれば、實に二十五割の増加を示し來り、是れを各市郡に別てば、三瀨郡の石數七万九千三百三十五石、價額參百貳万五千九百圓を示し、三井郡之に次ぎ價格七拾六万參千八百十六圓、山門郡の六拾九万八千七百拾四圓等にして、造酒家は概ね三瀨郡に於ては城島地方、山門郡に於ては瀬高地方、三井郡に於ては北野地方に散在し重なる酒造家氏名を擧ぐれば左の如し

三瀨郡 中村綱次 富安重行 首藤有記 江頭清 上野直次郎 野方彦三郎
三井郡 鷺頭勇次郎 榎下文助 今村萬平 廣瀬市太郎 滿地源藏 中村勝三郎
富安郡 中村常太郎 二宮萬吉 大藪茂次郎

三井郡 富安猪三郎

山門郡 池田廣太郎 田中彦太郎 星隈嘉太郎 川原嘉吉 濱武三 結 菊田

徹夫 村石慎 川原太郎 日野忠次造 久富仁三郎 森榮造 馬場彌三郎

古賀新三郎

▲久留米織 久留米織も、現今に於ては殆んど久留米緋と相對して聲價を世大の認むる處なるが、明治九年の創始に係り、當時僅かに需要者の依頼に應じて、製織するに留り、明治十二年幸扱川某の手織織を製織し頗る高評を博し漸く盛なるに至り、二十四年織改良會なるものを設け、専ら是れが改良に努め、同二十六年、織同業組合を組織し、愈々斯業の發達を企圖し、以て今日あるに至るなり四十二年に於ける、現業者は、三百二十七戸、職工六千八百八十五人、機數六千二百七十五台にして、其の産額は、二十七万八千五百五十五反、價格參十壹万貳千六百參拾壹圓なりと云ふ。

▲改良織 岡幸三郎、中野禮次郎氏の發起により、筑後機業界に、一新機軸

を出さんとし、四十一年筑後改良織物組合なるものを組織して、製出したるを創始とし、其製品は染色履美意匠新にして然も價額頗る低廉なるを以て、一般世人の嗜好に的し來れり、其の原料糸は、組合の管理たる染工場に於て染色せし者の外、使用を禁せらるゝ爲め染色の統一と、鮮麗堅牢とを保障し得るゝの特長ありて、將來益々有望なり、現今組合員は二百四十四名、其の産額は、改良緋、改良緋、改良無地、を合せて、産額一八五、〇〇〇反、價額貳拾九萬千五百五圓なり

▲久留米傘 久留米傘は品質堅牢なると、比較的價格の廉價なるとに依り、聲價を認められつゝ處にて、創製の年代は詳ならずと雖も、篠山城築造の頃より既に此の製造者ありしと云ふ、文政年間櫛屋機作販路を擴張し、安政元年長崎の常盤屋安兵衛、之が輸出をなさんとし、久留米の磯野卯右衛門に謀る、卯右衛門

長崎に至りて、傘五千本を蘭入「デイル」に賣渡す、之を以て傘の海外輸出の
始なり、廢藩後粗製亂造の弊を生じたるを以て有志者大に之を慨し一市四郡の
団体を組織し、之が改良を謀り、大に其の効を奏せり、四十一年の製産價格は、
實に貳拾貳万五千參百拾七圓にして、主要物産の二三位を舉じ可きものなり

▲藍胎漆器 明和の二年、勝月平兵衛なるものあり、京都に於て漆器を業るし、
妙技を以て鳴る、當時の久留米侯遙かに之を本藩に聘して、堅地塗が其の名を
天下に著すに至りしは、實に之を以て創始とす、爾後相繼いで川崎峯次郎氏に
至り、世態一變して廢藩置縣となり、藩主が國產獎勵方針も亦時に動搖するを
免れざりしも川崎氏は尙此名譽ある國產の製作捨てざりしのみか、愈々進入で
其改善に熱中し、明治十八年に至り、堅地塗の美點と特色とは、悉く藍胎漆器
の上に應用せられ、趣味益實兩全の漆器は、斯くして社會に提供せらるゝに
至りたり、爾來茲に二十有餘年、改善に又改善を加へ、精功微妙殆んど成功の

域に到達したるは、此近年の事にして製造者及び專業者も、該品の認識需要せ
らるゝに隨ひ次第に増加し來る趨勢にて、現今久留米市に於て重なるものを舉
ぐれば、篠山町赤松商店片原町篠原商店京町山口商店にして、何れも盛に販路
を廣のつゝあり、就中赤松商店の如きは、和傘の製造と品質の堅固なるを以て
赫々の名蹟、既に世人の認むる所にて、而も明治十六年久留米藩士族授産の爲
め、有馬家及び政府よりの恩賜金並有志者の寄附金を以て創立し、其後幾多
の變遷を重ね、越て四十一年有馬家の個人經營に移りしものなり、因に聽く、
藍胎漆器は、堅くして柔なる竹の細條を基とし五個の分業法三十七回の加工、
季候の關係に依りて遲速ありと雖も着手より仕上に至る迄は、少くとも、四ヶ
月以上六ヶ月の期間を要し、玲理透明器となりて店頭に飾るに至る由、品質と價
格は商店に依りて多少の差異あれども其の二三を擧ぐれば概ね左の如し

楢圓盆之部、一號五、七〇四號三、一〇〇八號二、〇〇〇會席膳之部、一枚ニ付平木形尺二

寸三、〇〇立椽尺二寸三、五〇椽荒掛九尺三寸三、〇〇吸物膳、五〇盛物盆、八〇丸盆之部、一號三、〇〇五號三、〇五八號一、〇〇菓子器之部、蓋付壹號五、五〇同四號三、〇〇蓋無三、〇〇椽之部、吸物椽二、五〇菓子椽二、五〇瓜洗椽二、八〇盆洗三、五〇角物之部、平木形盆尺一、二〇角椽八寸三、〇〇卷貫入二、五〇卷貫入壺二、〇〇煙草盆筒蓋付三、七五文庫一四、〇〇廣蓋三枚組二六、〇〇硯箱一號六、五〇盆洗壺、〇〇机四、〇〇同二八〇〇花生之部、大四、五〇小三、〇〇ステッキ一、三〇〇

▲筑後の莞莖と疊表 三潞郡内を中轄して、北部三潞郡の産物としては概して機業に随ひ、南部三潞郡は概して、莞莖と疊表の製作に随ひつゝ、あり、今や備後表は殆んど對等するの域に到達し居れるが、明治三十九年頃より四十二二年頃に至る期間内に於て、米國輸出大に擴張せられたるも、現時價格の低廉なるに依り、暫く不況に墜入りしが、斯業者は輸出向きの分を對して、限力挽回の策を講じつゝ、あれば、不日尙ほ往事の盛況を見るに至る可し

▲筑後の製藍 其起原詳ならずと雖も今を去る二百八十年前(寛永の頃)久留米藩主筑后川沿岸農作場の、屢々水旱の害よかるを憂ひ、播州千代川沿岸より移植し、大に奨励せられたる結果、所謂筑後藍の名聲を博するに至れり、久留米耕の愈々擴張せられるに及び彼我相俟て縣下の一大物産となれり、然りと雖も、其の後若干ならずして、輸入藍の爲め障害せられしを慨して、有志者力之が改良に致し明治十九年初めて組合を設け次て同三十三年同組合法に據り、教師を聘用して、栽培方法の改良を奨励しつゝ、あり、産額は年々十一万強を見つゝあり

▲筑後の製紙 筑後製紙も亦た主要物産の一に擧ぐ可きものにて、文祿四年日源上人の起業せしを創始とし、爾來次第に發達し明治十八年同業合を設けられ原料の精選と、諸機關の完備とに依り愈々向上し來り、現今の盛況を來すものにて、四十一年に於ける製紙戸數千六百八十八、販賣戸數二百五十九、職工七千五百六人の多きに及び、其の産額及び價格を示せば左の如し、

産額一、四七五、二〇〇東 價額一、一五六、〇四八圓

▲筑後の製茶 筑後の製茶は、明治四十一年に是を見るに、百十一万三千斤二十五万五千八百圓の巨額に達し居ると云へども、其の創始に至りては、吾人茲に正確なる起原をも知る能はざるも傳説に依りて見れば、往古支那の僧、上妻の山中に播種したるに始まると傳へ、海外輸出未だ開けず、需用少なき頃は、畦畔山麓にあるものを採收し來り、自家用となし、其の余を久留米、或は博多に販賣するに止まりしが、海外貿易の開始せられてより、遠く支那朝鮮に輸出せられたるに至れり、現時に至りては山林を伐採して大に天然茶を利用して産額額に加り、販路も亦た遠きに及び來り十七年組合を設け粗製を矯正し、巡回教師を置きて之れが改良に努め、二十二年組合の組織を變更し、紅茶研究所及び、綠茶研究所を設け、専ら斯業の改良發達に努めつ、ありと云ふ

▲筑後の製粉 文政二年八女郡高塚の人橋爪卯七を以て起業の創始とす、八女、山門の二郡は矢部星野の二川を利用して水車を設置し、盛に製粉をなせり、

元治元年松延勇吉氏、初めて之を長崎に輸出し、明治二十二年組合を設けて之が改良發達に努め、事業の隆盛を歸すと共に、一方には輸入米利堅粉を防壓せんとせり、同四十一年に於ける八女山門三洲の三郡製造戸數は二百四十九戸にして、其の産額及び價格は左の如し

産額八〇五、六七七斤 價格三〇一、三三二円

▲筑後の木蠟 本縣が全國産額の約三分ノ一を占めつ、あるは、世人の既に認むる處にて、縣内に於ても八女郡が第一位にある處と雖も今ま茲に數字を以て示し能はざるは遺憾とする處、乞ふ讀者此地が木蠟製産地として有數なる地なることを記憶せられんことを

▲蘭 作 蘭作は古來筑後の名産にして三洲、八女、山門の三郡之が耕作をなし、嚴寒の時尙灌水を行ひ、肥料を多量に施用して、専ら其生長に努むるを以て、品質佳良にして、光澤富み、農家の副産物として、花蕊、莖莖、蠟表等製織

材料に供す、四十一年に於ける、三瀨郡産額七十七万貫、價格二十一萬五千七百四十圓、八女の價格七万六千八百八十六圓、山門の價格二萬四千九百九十九圓等に於て當地方の有力なる産物なり、

▲久留米足袋 品質堅牢にして世人の嗜好に適し、斯界に於ける、九州霸王の觀あり、初め福山屋、蓬來屋、元治年間つちや倉田雲平氏、舊藩の仕立物即三谷松太郎氏に就き、次て明治三年長崎の小川願次郎氏に足袋の製法を學び、同六年開業同三十六年手縫法を廢し、機械の應用に努め、四十一年蒸溜機關を据付て原料の作製を計り、産額四十六万三千余圓の産額を出すに至り、亦たしまや石橋徳次郎緒方安兵衛氏も明治九年其の業を起し今や隆々として日に盛なるを見る其の産額七万七千二百圓なる由にて、斯業に従事する職工總數は千七百七十三人産額二百十三万一千五百五十六足價格五十四万六千五百六圓なりと云ふ

▲久留米吹風琴 久留米吹風琴は、一時其の販路旺盛なる時代ありしが、弄具品としての進歩と幾分の粗製との爲めに販路に多大の障害を受け、幾分衰微の感ありと雖も、未だ一種の特産物として、世人の傳ふる處なり、

▲久留米躑躅 久留米躑躅は、名古屋つ、じと相對して其の名稱噴々たるものある處なるが、概ね三井郡八軒屋及び三井郡十二軒屋附近に産出し、其の栽培は既に百余年前より流行し、遠く之を薩肥の山中より採收して愛育し、其の品種僅かに數種に過ぎざりしが、今を去る五十年前、久留米藩士坂本元藏氏霧島つ、じの人工的栽培を以て、失敗に失敗重ね、偶然良好なる播種法を發見し、茲に面目一新し花容色彩漸く巧緻を致すと共に、世の嗜好亦漸次増進し來り、今や二百五十種の花容を見るに至りぬ、今是を茲に大別すれば、二重猪口咲、並咲、劍咲、猪咲口、二重劍咲、簞咲、一本眞の八種にて、其の色彩は百種百態と言へ概して濃濃又純純等にして、栽培戸數僅々七十戸より、産額七万圓の輸出

見るは、實に其内容を穿ち與ふべし

▲三瀨の焼酎 三瀨郡に於ける焼酎は、酒造業の副産物にして、酒造業の發達に伴ひて、漸次其の醸造高を増加し來り、醸造高に於て、三十五年の夫れとは、殆んど二倍の増加を示し來り、聲價漸やく一般世人の認むる處となり、其の大部は熊本長崎佐賀地方に輸出するに至れり、

▲大川の指物 三瀨郡大川町に産出し、榎津物の名稱の下に物品の粗雜と價格の廉價なるに依りて、世人の知る處なるが、其の重なる製品種は、箆筒、長持、其他器具にして、特に水車の製造に巧妙なり、明治四十一年箆筒の製造戸數二百六十二、職工七百十三人、産額二萬三千五百七十二箇、價額貳拾壹萬四千四百四拾八圓、建具製造戸數十二、職工十四、産額六萬九千三百三十二個、價格八萬二千六百拾六圓其他農具、織機、佛壇、荷車、器械等の製造戸數九十、職工百三十三人、産額貳萬三千五百三十一個、價格四萬に達したりと云ふ

▲秋葉神社 久留米市城内北あり、本堂の建築より、神格の支那新に類する

▲山王神社 久留米洗劫にあつて西久留米の産神なり、社傳詳かならざるも毎年十二月十六日祭祀せらるる事傳へず、其の儀禮も亦詳ならず

▲山王社 久留米市京町の隅にありて寺を法恩寺と稱し、草創の起原詳ならず、其の梅林寺造建の際、其の地准ありしを今の地に移したるものなり、其の地も、梅林寺造建の際、其の地准ありしを今の地に移したるものなり、其の地も、梅林寺造建の際、其の地准ありしを今の地に移したるものなり

▲天照大神宮 久留米市紺屋町にあつて元と半間屋に敷ありしを寛文六年、今の地に遷したる、其の地、昔田圃の跡なり、其の地、昔田圃の跡なり、其の地、昔田圃の跡なり

▲五穀神社 久留米市外藤原村にあり、神田山、成就院、圓通寺と號し守夜神を祭神とし、稼穀の豊登を護るの神なり、境内放生池あり、俗風景頗佳なり、其の地、昔田圃の跡なり、其の地、昔田圃の跡なり、其の地、昔田圃の跡なり

▲徳雲寺 久留米市寺町にあり、靈圓湖山を號し、藩主春林公の草創なる、其の地、昔田圃の跡なり、其の地、昔田圃の跡なり、其の地、昔田圃の跡なり

一般世への認みる所となり、種々新業者の現はれるに至り、今や一種特産物の姿を呈し來れり、就中、柳河興産株式會社は最も古き者にて、次第に規模多きく、職工三十人産額三十八万、價格五万七千五百圓、其他の製造業者四十七人産額四十四万四千二百個、價額五万四千三百三十五圓合計拾壹万圓強の産額ある由

▲山門、三瀨、三池の蠶貝 有明灣の特産なる蠶貝は、有明海岸内に於て三瀨、三池、山門の沿岸に最も多く、曩に縣令として取締法を設けられしより、非常なる養殖を見るに至り、現今三郡を通じて、約八十万坪、此外天然養殖の區域は百万坪に及び、一ヶ年の産額は六万四千石十九万二千圓の多きに達し、販路としては近郷六七里及び汽車便を借りて遠く地方に送遞せらるゝのみならず、乾製造は支那の重慶地方に輸出せられる重要輸出品なり

▲山門郡の遠洋漁業 非常なる有望の事業として、韓海及び支那海に遠洋

漁業する出漁者は、即ち直接之海洋に面せる各郡に見ても、内海に面せる山門郡にして骨子となり居るは、實に不可數なる現象なるが如し、曩は常局者は勿論、各組合は之が獎勵を勉めたる所なりしが、山門郡現今の出漁者は約百艘に達し居りて、築上の二十六、早良の二十五艘是れ、次々増のなりと云ふ

久留米市と神社佛閣

久留米神社佛閣の重なる者は別項記載の如きなるが、順序より其の次位に屬す可き者を示せば、

- ▲祇園社 久留米篠山町にあつた松山祇園寺を號じ、祭神牛頭天皇(正體素盞鳴尊也)なり、毎年六月七日祭禮を行ふ、昔は、最も盛んなる寺なり、近年は、
- ▲稻荷社 久留米市城内にあつた久留米城の鎮守とす、毎年三月初の午日祭祀あり、

▲浮羽の苗木

浮羽郡の苗木と言へば、是れ亦た、關西第一の開へある所な

るが、原因としては土地の適合せるに依ると雖も、其の創始を辿り見れば、二

百年以前より柑橘の苗木栽培此の地に行れたるも、殆んど微々たる者にて明治

二十年頃より非常に盛なるに至り、桑苗は明治五年に始まり同四十年には組合

を組織し、之が改良發達を企圖する第一手段として、煙煙室の設せらるゝあり

たるが、斯業の産額を、四十一年浮羽郡水分植木、船越村に依りて見るに、二

千六百四万七百三十六本、價格實に貳拾六万七千參百四拾六圓の巨額に達しぬ

▲福島佛壇と提灯

佛壇及提灯共に福島地方の名産にして、一種獨特の技

能を發揮せられ、福島提灯に至りては九州全股盆會の、進物用とし多大の信用

を博しつゝ、ありて、提灯に拾貳万圓佛壇に約五万圓の生産價格を示しつゝ、あり

▲山門郡の鐘詰

柳河の海岸は貝類に富むと、士族授産の目的の下に柳河に

於て、鐘詰會社の創立せられるや、原料の精選と、品質風味の佳良なるに依りて

▲醫王寺

久留米市寺町にあり、瑠璃山と號し、京都大覺寺の末寺にて眞言宗

▲日輪寺

久留米市京の隈に在り、海東山と號す、昔時城内にありしものを文

祿年中現地に移し、夜明山朝日寺の末院にて妙心寺派の禪徒とれを守る。

▲千榮寺

久留米市寺町にあり、元和七年の草創にて吉祥山と號し、龍護山千光

寺八世從實和尚の開基なり、曹洞宗派にて千光寺の末寺なり

▲小林寺

久留米市寺町にあり、元和九年、俊良寺和尚の開基にて、妙心寺派の

▲正善寺

久留米市莊島町にあり、柳河一向宗西方寺の住僧が元和九年の創建

▲西方寺

寺町にあり、善導寺の末院にして、光雲山を號す、後陽成帝の御宇

に、西方寺と云ひしを、明歴三年事故ありて、高野山發光院の末寺と成り、寺

號を改め、眞言徒となり、國家安全の祈禱を修して怠らず

なり

念舉和尚の開基、元と柳原にありしものを元和七年今の地に移轉す

▲観音寺 眞言派山城國嵯峨大覺寺の末寺にて、市内莊島町にあり、寛永元年僧清覺の開基なり

▲心光寺 善導寺の末院にして、寺町にありて、普照山と號す、正保三年僧圓守の開基にて、堂守念佛を修して怠ることなし

▲西岸寺 瀬下町にあり、寶樹山と號す、寛永年中有慶和尚の開基にて元と京限にありしを寛文七年今の地に移す、善導寺の末寺なり

▲淨顯寺 東本願寺の末派にて寺町にあり、永祿二年、僧了心今の三井郡内に於て開基し、慶長八年田中吉政の命に依り元と久留米本町と稱せし處に轉し、元和七年今の地に移せり

▲無量寺 原古賀町に在り、香林山と號じ、寛永年中萬哲和尚の開基にして善導寺の末院なり

▲正蓮寺 瀬下町にあり、東本願寺の末寺にして、天正元年、南酒見村に於て、僧善佐開基し、元和年中洗切に移し、亦た承應四年今の地に移す

▲本泰寺 法榮山と號じ、寺町にあり、元和七年草創、安住院就の開基なり、京都妙滿寺の末院にして、法華宗派なり、現今住職日蓮研究會なるものを起し、毎月例會を開きて斯道の蘊奥を究めつゝあり

筑後の筑後

▲筑後と紡績 鐘紡支店の最も規模廣大なるものを鐘紡三池支店となす、三池支店は三池郡大牟田町にあり、女工千六百八人男工三百人を有し一ヶ年約二四、六

〇〇梱の製品を出し、輸出販路は多く上海、香港、天津を経て清國に入り、朝鮮へ向ふ輸出をも漸次増加し來り、一面内地向きとしては近畿、四國、中國、勢州地方及び北陸各路九州一般を獨占せるの状況にして多和田督太郎工場長

として就任以來、職工の優待等の評あるは斯業界及び同支店の爲め賀す可き事となり、久留米支店は久留米市篠山町にあり規模小なれども四邊眺望に富み、空氣新鮮にして、篠山神社と隣し花時の如きは恰も公園内に建設せられしの趣きあるは久留米支店の特色と謂ふ可し

▲久留米と銀行 株式會社六十一銀行、十七銀行久留米支店、八坂銀行久留米支店、北野銀行支店、不動貯金銀行久留米代理店、起業銀行支店等ありて六一、十七、八坂、北野の四行は何れも地方金融機關として重視せられ、不動銀行亦二種の興味ある貯金法として一般の歡迎を受けつゝあり

▲久留米と新聞 久留米と新聞と言へば久留米の新聞歴史は随分複雑なるので意外に新小聞とゴロ記者のもつる所だ、先の第一に九州毎日と筑後新聞との二社で、九州毎日は竹下政二郎氏の經營になり、發行部數三千部註せられ、中尾紫川朗、田川氷山の豪の者あり、本社通町一丁目に置かる、筑後新聞は、元

▲開國新聞と稱し、島原より移轉したるもの、清水社長の退社と共に九州日日新聞社の分身となり、八頁無休刊發行部數三千と稱し、基礎強固ならんとするは従ひ、漸次信用を博せり、旬刊として久留米新聞(馬鉄通)に川原田綠天、月刊としての滑稽新聞(原古賀)に宮崎吟月あり、共に怪氣煙を吐きつゝ、あり、支局支社としては福島の莊島、九州日報の京町、九民友の京町、何れも事務所を設け通信事務も従ひつゝ、あり、別に莊島町へ南筑廣告社及び学扱川町に九州民報と題する文藝新聞あり

▲久留米と辯護士 地方裁判所支部所在地としては、比較的多數の斯業家を有る譯けにて、斯業者の多きは犯罪事件の多きを意味し、余り感心す可ぶきでもないが、何んでも有るより幸福な事はないとして少し紹介すれば先づ政友會久留米支部の曉將連、大石健太郎氏、松田正定氏、久留米實業團の是れ亦大頭株で太田渡邊の両氏、前市長の吉田惟清氏、若手の川井正進、押山長吉の両氏、

堤達三郎氏、財津、森田、長濱氏等評判高き方なり

▲久留米と劇場 惠比須座、國分座、勝榮座、萬歳座の四座ありて、惠比須座は、市の中央幸抜川にあり、最近の建造になり、規模廣壯にして二頭地を抜き居れり、國分座は市外東久留米にあり余り規模大ならずと雖も、近來は觀客の飯路筑後軌道を以て、無賃送迎する等營業方針最も嶄新なるを見る、勝榮座は勝榮町にあり、活動寫真浪花節義太夫等も、適したる良劇場なり

▲久留米と呉服店 三本松町の荒甚、全森新、細工町の武藤、三本松町の内田、米屋町の秋松、通二の飯田、通十の武谷等一寸と重なり

▲久留米と洋品店 無翠の久留米人には余り高襟の洋物は不必要と見へてと言へば眞面目に聽かれるが、そうでもないくせに余り立派な洋品店は稀れである無理に數へて見れば先づ、通町松本芳五郎商店、三本松町田中洋物店、三本松町吉武常太郎商店、米屋町の森文等重なる者とし小間物屋としては、幸抜川の

前田節五郎等先の重なるものなり

▲久留米と運送店 郡部は三井、浮羽、三瀬郡の一部を勢力範圍に有し亦た日田郡地方は鉄軌の便を大分、中津に仰くより、寧ろ久留米に仰きつ、あるを起因として頗る盛なるが如し、久運、八坂、九州運輸、九五等先の盛など者として數ゆ可き者なるが、來る可き大久線完成の曉きは、一段の光彩を添ゆること疑なき處なり

▲久留米と購買組合 日吉町有馬町に在り、日用品米穀其他雜貨等の購買會員相互責任になり、會員は最も薄利に諸品を購求するを得、最も利益あり便利なる組合なり

▲久留米と緋店 言わいで知られた事であるが知れた事を言ふのが案内記の務めである、久留米は緋の本場丈けありて、随分緋店の大きなものがある、先づ第一は國武緋店(通町六)、木村緋店(通町三)、松居緋店(通町六)、岡茂緋店(通町三)

秋松耕店(米屋町)等重なるものにて未だ數ゆ可きもの多からん

▲久留米と旅館 久留米の旅館と來れば随分現金主義なものなれども、現金さへ所持すれば、随分表面親切の待遇もする處なり。先づ細工町青々館、兩替町布屋、馬鉄通林松館、三木松町塩屋、馬鉄通高砂館位を、等に置いて三等迄でも數ゆれば、驛前の江口屋、兩替町柴田旅館、徳永旅館、今町肥前屋、片原町三國屋、通十丁目の紅葉館位なもの

▲久留米と湯屋 久留米で比較的發達したものが一つ料理屋、一つ藝者、一つの湯屋と、斯く數へ來れば第三位に位して居る成る程と立派である、普通の湯屋では左程に奇麗と言ふ譯けでもないが、湯屋兼料理屋と言ふ設備が出来たのが五つありて數から言ふても九州の大市街とする博多、熊本より多い、市の中▲央便利な處にありて、最近の建物から舉ぐれば、先づ日吉町の玉水館、少し古くはあるが進歩館と言ふば、一時は非常な旺盛な事もありたし、水は随分清い、

菓子 和洋 商 松 綠 堂
大牟田町土橋南詰

久留米購買組合

めぐね大 勉 石川時計店
ゆびわ強 大牟田有明町

洋傘 製造 羅紗物 卸小賣商

一、羅紗物 マント類御注文の節ハ寸法色合
一、洋傘御注文ハ色合
御通知次第早速代金引替小包にて御送付可仕候

大牟田有明町 古賀本店
全町築町 全支店

筑後柳河上町
小間物教
育玩具商
舎木下商店

萬小間物
教育玩具
内外化粧品
内外石鹼
卸問屋
筑後柳河町
平服部商店
宇瀨高町三丁目

竹材
木炭
久留米市京町輕便濱
卸商
大崎商店

カブトビール
一手特約販賣
並ニ
和洋酒諸
罐詰問屋

久留米市新町二丁目
加登屋事
商店主 **山口吉次郎**
(電話五一七番)

擊
劍道

具製造

販賣所

久留米市東久留米馬鐵通
添田金平商店

陸軍御用
米穀
漬物
野菜
久留米市通東町
商黑岩三吉
(電話三一八番)
黑岩精米所

久留米市通町二丁目
四十八番地
株式會社
不動貯金銀行
久留米代理店

各產美術
漆器販賣
並製造業

久留米市通町四丁目

山月原漆器會社

(電話五五四番)

藥品
賣藥

久留米市通町五丁目

橋本濟生堂

久留米市通町三丁目

和洋雜貨商 松本芳五郎本店

(電話二二四番)

全町

萬小間物商 松本芳五郎支店

建具一式 久留米市小頭町二丁目

小道具類 酒見 初太郎

和洋戸棚 製造販賣店

和洋箆筒 久留米市菅坂川町三丁目四角

陳列棚 酒見 支店

久留米市兩替町

共 小豆 卸商 緒方英二郎

電路(ヲカタ)

柳河名産

富士味噌

歐米文具品

卸商

和洋諸紙

久留米市三本松町五二

前田良資

(電話三百三十番)

寫真攝影

特別

寫真器械

割

紀念繪葉書 引

名所 各種繪端書

其他

木炭商 上野商店

毛

(電話六三六番)

久留米市日吉町七二(軌道通)

久留米市日吉町三丁目

久留米寫真館

冬物新荷揃

久留米市通町十丁目

全武谷吳服店

久留米市片原町

洋傘 絨製品 卸商 今古賀貞吉

(電話五十三番)



和洋鉄釘

諸金物卸商

久留米市鍛冶屋町

◎吉秋山勘七

電話七三六番
略語(アキカン)

●建築家見落勿れ●

當店は何故に建築界に高評を博せるか、曰く
整然なる材料を薄利を以て販賣すればなり
故に何か建築の計畫を有せらる、向は躊躇な
く御採用の榮を賜り度如何に些細の御用向に
ても何とぞ御用命仰付被下度願上候

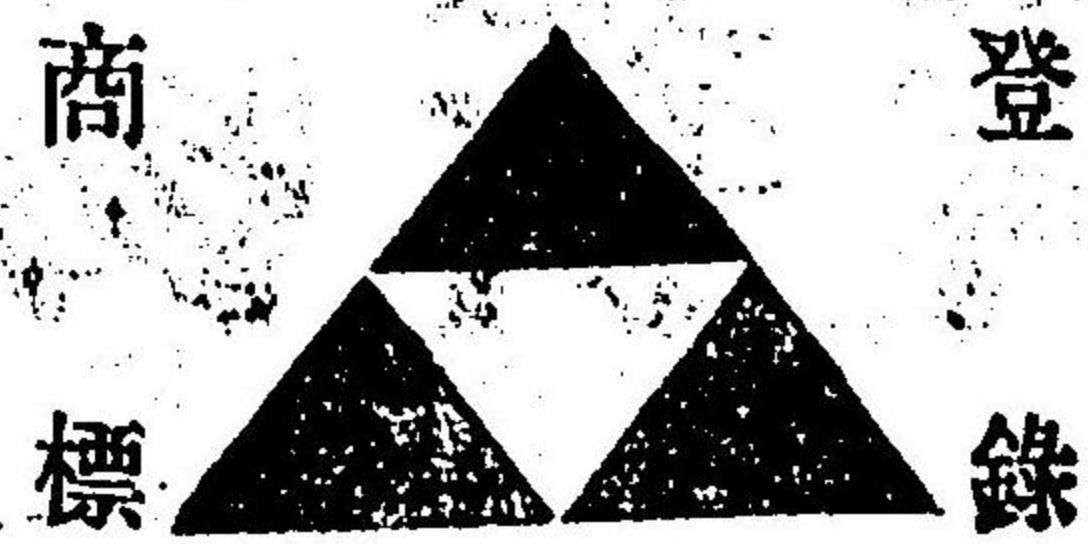
建築材料

土佐石炭、セメント、焼粉、芋切、
布海苔銀杏艸、松煙、辨柄、人造
石木材防腐劑、座敷壁、茶間壁、
上塗用色、土色各種
其他建築材料各種

久留米市築島新町四番地

田中増太郎商店

(電話六百六十九番)



あかうろこ

筑後國柳河

釀造元 菌田治一本店

(電話 一一番)

陸軍

御用達

醬油

久留米市油鉄通

販賣店 菌田治一支店

(電話 七二四番)

夏向きの紫水館(京町七丁料筑後川畔)通町十の中島、瀬下の榮松館、繩手の凱旋館等重なるもの

▲久留米と寫眞屋 師團設置の頃、急劇なる新業者の増加を見い、斯業界の先途心寒きの感なきにしもあらざりしが、漸次減退し現今は比較的地盤堅固なる者のみ殘留せるの觀あり、櫛原町三光軒は博多三光軒の分身として、頗る技術上の信用を博し、赤司今町、佐藤吉富馬鉄、を重なる者とし馬鉄久留米寫眞館は新進開業寫眞屋なれど亦た評判高し

▲久留米と米穀商 地方の米作盛なるに伴ひ、斯業者の販路も他縣に仰きつ、ある状況にて、随分盛大なる商店あり、就中京町島商店、通九江上商店、通九橙野商店、細工町三島商店等重なる者なり

▲久留米と株式会社 久留米市民が商業に熱心なものと、利己早く言へば(コネキ)のとは、大阪の小模形をなし、從て投機心に富んで居りて、起きては轉ひ、轉

んでは起きる相場師の亂闘場裡なる定期所代理店とも言ふ如き株式店も市の割合には、随分繁榮する處で、通町豊田商店、通町加富士商店、三本の堤商店等何れも頗る隆盛を極めつゝあり、因は言ふ、定期所としては此地方へは博多の夫れど、熊本の夫れるある斗りだから將來此の九州の中央都會たる吾が久留米市に定期所設立の舉ある位敢て空想と言ふ譯けでもあるまい

▲久留米と材木 筑豊の材源を筑後川に依りて控ゆる久留米市は、隨て斯業者の隆盛なるを見る、就中、中野猪之吉京町、妹尾材木店京町、三安新次小頭町等重なる者にして水野製所は京町輕便濱にありて頗る盛大を極む

▲久留米と牛乳 久留米牧牛株式會社東久留米、中垣牧牛場(津福)、今泉(柳原)、谷口(篠山町)、日永田(國道)、塚本(津福)等重なる者なるが、久留米牧牛株式會社は大石健太郎氏を社長に仰き、片岡氏の經營支配になり最も隆盛なり

▲久留米と自轉車 富松自轉車店日吉町、藤島自轉車店國武町、上田自轉車

店日吉町馬鐵通、田中自轉車店東久留米馬鐵通、橋本自轉車店芋抜川二丁目、廣島自轉車店三本松町、等重なる者にして何れも人力車ゴム車輪をも販賣なし居れり

▲久留米と洋服店 師團設置と共に頗る斯業者の増加を來し、現今約四十の斯業者あるに至り、就中橋本米屋町星子新町、飯田今町、高尾櫛原町、平佐花畑、太田花畑、川副、平田、栗林等の洋服店は信用の重なる商店なり

▲久留米と藥店 夫きのから言へば水田通一、大石今町、高尾馬鐵通、橋本三本松町、松隈大黒堂瀬下、橋本通四、伊藤三本松町、山田通九等重なるものならん

▲久留米と鐵工場 工業の盛なる割に鐵工場の大きいのがない、夫れは地方の工業の概して機業なる所因である、黒岩鐵工場、堀内鐵工場等規模の大なるものにて森鐵工場廣津鐵工場是に次ぐ

▲久留米と時計店 高田時計店(三本松町) 蒲原時計店(通町一) 松崎時計店(通町四) 等先づ重なる者にて、宗野時計店(花畑)は久留米に於ける時計屋の嚆矢にして現今の店主の嚴父は、安正三年久留米公の命を受け斯業研究に、従ひし如き最も歴史ある時計なり

▲久留米と傘屋 筑後の産物として別項重要産物の項に記載したる處なるが、久留米に於ける卸店の重なるものを擧ぐれば、藤島久吉通九、渡邊藤作通五、吉村利祐通五、中川喜次郎三本松町等なり

▲久留米と清涼水 清涼水としては、市の小なるに反し比較的進歩して居る様で品質の良否は兎角としラムネの製造家も澤山あるし、サイダーには松本の千歳サイダ及び、國分鶴城礦泉の鶴印サイダー等ありて、各々販路も随分遠地に仰ぎつゝある様だ

▲柳河地方の潮干狩 有明海に面せし筑後沿海の潮干狩は、他地方に見い

能はざる趣味と興味とを以て、世人の歡迎する處なるが、二、三、四、五月の月齡一日前後及び月齡十五日前後に於ては、柳河地方の河岸漁舟の繋がる處、遊漁者儲をなし、數百艘の漁舟又安座を競ふこと壯烈なり、人を以て滿舟されし漁舟は洒々落々、意氣昂然として、各々獲物の希望を語りつゝ、舟は潮干に托せ流下半亭亦た數亭にして、崇巖なる島原温泉と多良の峻岳の屹立せるは、彼岸の四つ山及び三池炭坑の黒烟も一くぞ相對し、其間遠く白帆点々たるを望みて、數里に亘る汗州の漁場は開展され、柳河より来る舟、大川、中島、肥前各地大牟田等より群集したる數千艘の遊漁者は各々獲物に機先を争ふ有様快絶なり、日漸く西山に傾き滿潮の來る共に、舟は自然に浮上され于潮の爲めに流下されし航程は、亦滿潮の爲めに潮上されて、日暮に着く、此歎び都人の知る所にあらざる可し

▲久留米と藝者 久留米で最も進歩したのが、即ち藝者であると賢しまる譯

けでもないが、顔の善し悪し、藝の有無は兎角として、数から言ふても九州博
多を除くの外、久留米の右に出でる所は到底ない、新紺兩券合せて殆んど二百
人夫れに加へて雇女の南券、廓内の赤司券合計二百五十からの紅君先生が、何
れも相等の賣行あるとは驚くの外ないが、加之、毎夜毎晩惠美の頃には、不景
氣の風と、ゴムの車輪に切り、金の無い國へ行つて見たいと、言ふが如き風情
にて自ら別世界の觀を祈るとは、田舎者に非ざる僕の考へである、醉樓等に
は一つ一つの擧げて御照付申す筈けれど、木と石にて造りし僕には薩張り分り申
さず、敢て案内の職務を盡さぬと云ふ譯にも行くまいから責任免れよ一つ二つ
と來れば先づ藝の達者から言へば、新券に於てお今、三吉婆さんは勿論として
といふ助の肥後甚句、千樂飲酒、津江の炭坑節、政彌のおてもやん節、紺券戀路
の戀愛哲學、圓太郎の役者願き、愛蝶の博多節、芝樂の女將候補生、若手さめ子
金太郎等の豪の者あり、御面相から行けば新券の靜技もどめ、政彌とんぼは紺

券金龍、圓太郎、金水、とめ子等一寸美人の評がある此の位の事で責任が濟む
かと御咎めあれば、時間二本の線香よして、一本十三錢一時間三十六錢也、隨
時に御招きありて然る可くと心得申す

▲久留米と料理屋 此種の營業者の續出するは、余り喜ぶ可き現象でもある
まいが、兎角斯業者の繁榮せるは、一面に於て吾が久留米市の繁榮を表白する
もので賀す可きである、斯業者の大きなものから順次擧げて見れば先づ、宴會向
きの萃香園(榊原町)、朝日華團(篠山町)、丸嘉(魚屋町)、九五本店米尾町、博
集館日吉町、名古屋日吉町、湯屋兼としての玉水館日吉町、中島通十東、眞猫
としての梅月、霞園、福壽園、喜笑、江頭、花屋、末廣、吉村、山咲、吉見、辻湖
月、初音、専門屋として牛肉の丸八と、隈丸、かし○丸万、丸久、満月、そばの
東京庵、西京庵と、西洋料理の青々館支店、うなぎの大野千歳屋位なもの
▲久留米と遊廓 規模から言ふても、面相から言ふても、久留米の遊廓とし

ては、恥しからの資格を備へ居りと言ふも、道路の設備不完全なるは大に遺憾とする處である、二十余戸の遊廓四時不夜城の光景を呈し居りて、重なる者を擧ぐれば、西松月樓、高砂、西高砂、晚翠、改心樓等先づ重なる者なり

▲柳河と旅館料理屋 柳河の旅館は比較的廉價の評あるを以て特色とし、中町久留米屋、全平野屋全大和屋位な者の料理屋としては、高畑公園附近に多く在り、鯛屋、喜代川、丸新、仕出専門の山田屋、玉川等大きな方で近來柳河券番なる者の設けられ紅君七五大に振ふの噂さなり

▲柳河と鰻 筑後地方到る處鰻の産せざる處なしと雖も、柳河近郷最も多くして、其の質良好なるを以て、柳名鰻の名稱あり、從來鰻は運送の艱難なりしかば、九州地方位を充分の販路とせしが、數年前より、運送法研究の結果、水より淡塩、淡鹽より濃鹽と云ふ具合にして、海中曳船の良運送法を發見し、漸次販路擴張せられて、現下に至るまでは頻りに京坂地方に輸出せられ、柳川鰻の

稱漸やく揚る、鰻の種類は其の形容に依り優劣あり、亦た其の味其の價格を異にする者にて頭部の小にして黒色を帯びる者の、比較的美味なると、運送上永く生きるの所因を以て價を尊とばる、ものなり、稍青黒さもの新前と稱し、肉く軟らかくして骨細く最も美味なれば地方人の最も賞するものにて赤色のものと頭の大なるもの劣等とす

▲久留米と古着屋 久留米古着屋は他市街に稀なる繁榮と特色とを有し、通一丁目最も斯業の盛なる所なり、卸店の大なる者を擧ぐれば寺崎吉平通一、山本八平通一、高木古着店通二、廣津義助等にして其他斯業者軒を並べり

▲久留米と植木屋 筑後の重要物産の頂に示したる如く、久留米地方が植木の盛なる事は今更ら言ふ可きに非らざるも、植木屋としては、隨分他市街の夫れとは規模を異にし居り、就中、赤司廣園樂の如きは其の最も重なるものにして、春秋夏冬の四時爛熳たる花の絶ゆることなく、外來の士は多く斯園參觀

の杖へ引くものあり

▲久留米と下足店 卸店として三本松町徳永下足店は日田を材源に控へ最も盛なる卸店にして今町松村下足店、三本松町向井下足店と共に嶄新なる衣裳を選びて販賣しつゝありと

▲久留米と金庫樂器 井上樂器店中津川金庫店共に新町にありて地方隨一の專業店あり何れも夫だ開業日ならずと雖も店務益々隆盛を極めつゝあり

▲柳河と味噌 柳河味噌の名は一般に知れたるものにて、製造家としては随分大きながある、吉開治吉、櫻味噌石橋味噌店等重なる者にて九州到る所柳河味噌の名を聞かざるの地なし、就中吉開治吉氏の如きは遠く滿洲地方に販路を致しつゝあり

▲久留米とランプに硝子硝子店としての古賀慶次郎氏通三、ランプとしての平岡商店何れも斯界の重鎮たり、日田水電を源動力に仰ぎ吉井、田主丸、久

留米の點燈以來石油と共に其の供求を減したりと雖も、奮闘に奮闘を重ねられし結果として愈々店務繁雜を極むるに至れり

▲久留米と印刷屋 通町香木印刷屋、通町香木印刷屋等先づ重なる重なるが馬鉄通り有馬町猪股公明堂と号する主人公先生は成程技術も中々優秀なる者なるが、先生小刀の尖きより哲理を發見したものと見へ曲りし事とが嫌ひで、眞理に關したる議論で毎日某新聞記者と火花を散らすとは亦た毛色の變りし、印刷屋先生也乞ふ先生自愛せよ

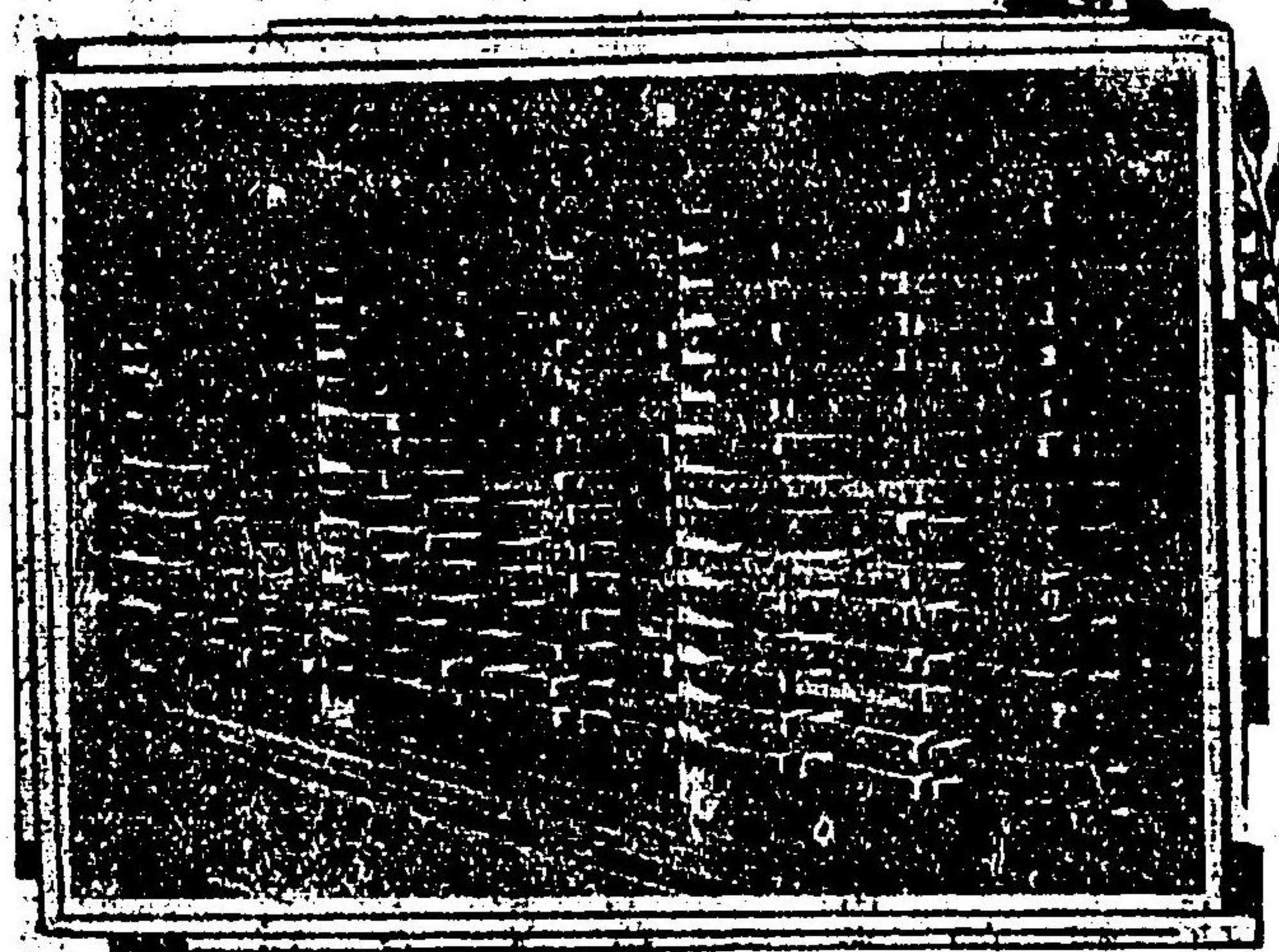
▲久留米と石油 ライジングサン石油最も賣行きよく、久留米販賣部は、馬鉄通り國武町にあり、筑後一圓は同店の販賣區にあり居れば、頗る隆盛なり

▲久留米と鮎鯉 旅客此地に足を踏みおぼ、旅亭膳部に必ず鯉或は鮎の味噌汁の供せられるを見る、是れ筑後地方の土産にして、三井郡草場村三條の産其の質最も佳良あり、鮎鯉は四時漁獲ありと雖も、冬季鯉の漁獲法も最奇抜にし

て珍とするに足る、
漁夫は霜雪膚を切
るの朝堤上に立
ちて北風蕭々の間
にザンブト斗り
鏡が如き水底に潜
入し、魚類か人の
體温を慕ひ來るを
抱き浮上する自標
實に壯烈を極む遠
近の旅客折角く
秋を引く者多し

▲久留米と菓子
久留米市には菓
子として比較的佳
良なるもの稀にし
て、瀬戸町鶴善の
チャンピオン細
工町の勸のカス
テラ、新町吉金
の高良館位が一寸
地方迄に知られ渡り

鶴善製菓工場の一 部



善式鶴二第乾燥室内之部
(チヤンピオンオノフ一千歳館を乾すか装置)

▲久留米と菓子
宮崎名子と
てき者高
町に二丁通
目博各博
覽評會
品賞せり
等賞状
を受賞
し舉げ
違な
を以て

同店の品質と信用とは以て知らる可し

▲柳河と醬油 柳河醬油と言ふ一般に知れし名ある譯けにはあらざれども、
各地の大なる醬油醸造家は多く、柳河の出身或は幾分の關係を有する者の如し、
又た柳河醬油も品質頗る佳なり、柳河外町園田氏の赤ウルコ醬油、同出來町林
專太郎氏の老養醬油等地方に名ある者にて、兩者共に販路を遠大に持し居れり

▲久留米と靴屋 今町佐野半助、通町權藤五郎氏等大なるものにて師團設置
と共に靴屋の副業たる馬具亦大盛に製せられるに至れり

▲久留米と文具店 今町、久富源助、三本松町前田文具店、馬鉄通馬田紙店、
馬鉄通り川副紙店等重なる者なり

▲三池港と繁榮 三池郡三川村大牟田町南二十五町の處にあり、數年前迄で
は殆んど寂寥たる一漁村に過ぎりしが明治三十五年十一月三井礦山會社が三池
炭坑運輸機關の完全を期し、兼て海運上の公益に供せん爲め築港を内港外港の

二港に分ち、内港は専ら自家運炭用に供し、外港は概ね一般汽船の碇泊に供せん爲め起工し明治四十二年竣工を告げ爾來内外運送の便頗る頻繁なると共に三池炭坑が石灰の積替所となせし長崎縣口津港が従前の繁榮は、此地に移りしのみならず、氣早やの商人は此地將來の繁榮を豫期し、奇利を嚮策するの士續々として各地より來集し年成らずして、今日の發展を致すに至る、而り然れども世人は此地の發展の豫想よりは以上に多く亦た大なりしかば、銳利に速やるの商人等が幾分の基金を投じて何等かの商業を開始するや、事實は思に反し、行李を肩いで郷里に立ち販るの人と交々現われ、移動甚だしく爲め先途幾分の悲觀なきにしもあざりしが、今は既に多少の地盤確實なる實業家のみ殘留せるの越きを呈し來れば、此地實質なる發展は是より以來と思はる、實業家の重なる者としては多く船舶賣込業を營むものなるが坂製商會は賣込業者の重なるものなり

▲三池港と停車場 大牟田驛と三池港の離りは余り遠からざる、三池港が發

展に伴ふて停車場の必要あるは自然の趨勢なるが、既に附近の大島に地をトし設計中あれば、不日現實を見い、一段の發展を促す可し

▲三池港と船便 三池港より海上汽船の便は未だ全きに至らざるも、現今に於て島原天草諸港に通ず船便開始せられ爾後續々其の舉ある由あれば頗る便益を興ふる至る可し

▲若津港と海運 有明海に面せる肥筑の良港たりし、若津湊は三池港開港以來幾分海運の荷物を減したるも以前として從來の名に恥つる處なし、旅客は三池港と同じく、其の航路島原天草口津長崎方面へ向ひ居るも期日の確定したる汽船あければ最も稀あり、大川港より筑後川を溯流し久留米よ來るの少汽船は從來時間を期し毎日其の出港見たるが經濟の共なはざるに依り停止し現今は事際に際し臨時出港するが如し

▲筑後と新聞 久留米市を除き筑後の言論機關たる新聞は大牟田町大牟田毎

日新聞(日刊)柳河町柳河新報、毎刊大川町大川新報旬刊の三新聞にして、大牟田毎日新聞は明治三十九年十一月吉野秋民野波十畝大森柳川其他二三氏の創立にして最初不知火閣と号新に移りて大牟田日日新聞と改め後ち大牟田毎日新聞と成る、現今は内田六郎君主幹にして若山牧水君之れに居る、變化に變化を重ねし同社は盤根措節以て今や幾分の地盤をなすに至れり、柳河新報社は山門郡城内村木町にあり、三十五六年頃光行次雄君の創立にして従來は八頁形月三回の小新聞にして、多く見る可き處なかりしも、柳河郷人士の消息變動を煩る忠實に報道するの特長を有し郷人の歡迎を受つ、ありしが今春改革を行ないて、紙面の刷新と設備の完全を計り漸やく世人の認むる處となれり大川新報は大川町若津にあり月二回發行なり

▲大牟田と銀行 大牟田町金融機關としては三池銀行あり、永江純一氏頭取として三池郡隨一の金融機關なるが近き將來に於て、四ツ山に支店を開設し事

務を執掌するの舉ありと言ふ

▲柳河と金融機關 柳河銀行、沖端銀行、佐賀銀行柳河支店の三行あり柳河銀行沖端銀行共に地方金融界の首腦たるが、沖端銀行は創立以來未だ日淺きと雖も頭取山本安次郎氏の温厚にして信頼厚きと共は行務愈々振ふ

▲大川と金融機關 大川町金融機關としては三池銀行あり、資本五拾万圓頭取中村綱次氏、支配人三谷高音氏にして、三池郡内有大なる金融機關なり

▲大川とセメント會社 有明海特有泥土の産物として九州に其の覇をなせる日本セメント會社大川支店は對岸日本セメント會社諸富支店(諸富セメント株式會社)と相對して、白塵は雲煙の如く天を貫くあるを日本セメント會社大川支店となす、其の初め小川セメント株式會社として獨立經營なりしが四十二年日本セメント會社と合同して支店となり、現今の支店長は江上喜一氏にして温厚の名聲噴々たるものあり

▲大川と深川造船所 大川町の西端筑後川に面せる處あり、筑後有一の造船所にして、佐賀市の豪商深川家の經營になり、汽船造船業及びドックを有し、汽船の修繕等を行ふ頗る隆盛なり、此造船所に依り製造されし良汽船多く、亦た進十式スコロクは深川家の嚴父が此の造船所に於て發明せるものあり

▲柳河と軌道 柳河地方人士は元と九鉄の柳河に通せざりしを憾むと共に、何等かの行通機關を現實するは柳河人士の宿望なりしも、久敷其の運びに至らず空しく不便を卿つ者多かりしが、柳河軌道株式會社は矢部川より柳河に通ずる四哩一三鎖の軌道を本年四月より開通せしめ尙は向後二階軌道會社より來る柳河線との接続を計る由なれば頗る便益を得るならん因に言ふ全線乗車賃拾貳錢營業時間午前六時より午後十時六分迄にして發車時間は左の如し

- △柳河發 六〇六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇
- △矢部川發 六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

五、二六、五、五〇、七、三〇、八、〇〇、九、三〇

▲柳河と鐘詰製造所 柳河の鐘詰の名聲高きは重要物の頂に示したる處なるが今茲に頂を替へて鐘詰製造所を列記すれば各々其の特長を有すれど、興産株式會社、西海鐘詰製造所大和中島平川等重なるものあり製品としては、赤貝、あげまき、鰻、龜其他有明海産魚類、及び料理用の菜類鐘詰等多く製す

▲柳河と呉服店 阿波屋楠川傳七辻町、森田屋辻町松永柳河支店瀬高等先づ重なる者なり

▲柳河と藥店 河野藥舖瀬高町、江口藥店辻町等重なるものにして外に特長する藥店なし

▲大川と旅館料亭 旅館としての鮎川旅館、柳川屋、瀬下屋、龜屋、氷屋、若松屋、(以上若津)常盤屋(明治町)山半旅館、龜屋、豊後屋(以上榎津)料理店柳河屋、氷屋(以上若津)魚林龜屋支店(以上若津)等なるが料理屋は、町の小な

略に反し遊廓の繁榮を極むれば、比較的大なるものありしは、極限まで、開き小

▲大田と旅館 常盤館有明町、舟倉築町、肥前屋常盤町、米屋榮町、等が

▲高等旅館に類する者にて四ツ山港附近はホテルと真替の如き幾多の旅館あれど

も、土地の新しいのと伴ふて、未だ設備完全ならざれば列記せざるも、三井三

▲池築港外港接成の曉きは斯業に非常なる發展を見る可し

▲大牟田と粹界 大牟田及び四ツ山附近料理店の多きこと實に驚く可き數で、

▲又た笑ふ可きのは四ツ山料理店看板の英字にして、料理店前にホテル等の看

板を揚げたのはまだしもの事、有耶無耶で全々譯けの分からない英文字を徒ら

に羅列したのが随分多い、又た亦た外國人に見せしむる目的の下に、日本文字

でホテルと英文句を並べられたの如きは實に失笑千萬なり、新聞地なれば時

勢の到達を待つの外ありと言ひながら吾國の林面上にも關する者あれば、願く

ば斯業者注意を欲しき者也、數に於ても設備に於ても大牟田の料理店としては

立派なもの多けれど、筆者が茲に列記する能はざるを憾は讀者の推量に托かす

るを諒せられよ、唯だ眞に舉ぐ可きものとすれば、清養軒、惠美須屋、丸古料理等

位なものなり、藝者としては大牟田札番ありて約三十の紅君あれど料理屋内の

酌婦優勢にして、余り甚たしき繁盛を見たることなし、遊廓は久敷し此地の間

題なりしが今春須の鼻及び三川村三里の中間舊堤防の松原附近に地をトし現今

建設中なれば、近き將來に於て大牟田不夜城の光景と小料理屋の見苦しき弊風

とを打破して幾分の光彩を添ゆ可し

▲筑後と香魚 筑後の地は一對に河魚甚だ多き地にて、香魚漁獲高多きこと

に於ても九州に稀にして、筑後川、矢部川に漁獲を見る、矢部川の香魚は余り

長大ならざるも肉質の佳良なるを以て其の名高く、筑后川の香魚は肥大なるこ

と全國に稀なり、文人として有名なる故五岳上人が、曾て京都にありし頃、香

魚の揮毫依頼せり筆を揮ふて長大なる香魚を畫書きたる處、某は其の余り肥大

にして鯉に似たるを大に冷笑せしかば上人怒りて、直に飯郷も香魚の鹽漬を送りし如き逸話ありて、眞に筑後川の香魚は肥大なるを以て其の聲高し

▲久留米と活版所及石版所 時勢の進歩は文筆の勞を減し活版及び石版の如き代筆の技を備ふる營業の増加するは自然の數なるが、久留米市は活版に於ても石版に於ても其數多きこと他市街に稀なる處なるが、何れも大同小異にして大差なしと雖も觀文社は規模大きく最も最初の開業にて、其の次に置く可き者としては淺野、松延、山浦、廣田等重かる者にして東原石版所は技術精巧の聞へ高し

▲久留米と表具屋 久留米藩は年代から言ふても随分古き丈け古物數奇者も隨て多い、是等の起因に依りて、久留米市の表具師は自然に技術の鍛達を究める譯けにて、海老海、岡仁一郎表具店等は最も其名高し

久留米と師團

久留米が肥筑の平野に位置して、筑後川の右岸に沿ひ、筑後の大都邑を占め居るは、言はずもが、斯くて昔は、筑後川の戦かいありて、菊池武光が大友勢をかやましたる事蹟に富み、降つて有馬一豊氏篠山城に據り兵馬の權を握りしより、勢力頗かに加はり、東は豊後大分、西は佐賀長崎、南は柳河熊本の大藩小藩と比肩して嶄然一敵國の觀をかせり、之加からず地は九州中央に位するを以て、商業地としても樞要の位置を占め、爲めに諸工業の道は早くより開け、殊に機業に至りては久留米緋あり、有名なる製産品を出して、土地の平野多きに點綴して、更に一層物資の多きを示せり、然るに時は日露の大戦を經過し、我國軍備の擴張は益々急を訴ふるに至り、十二師團より十八師團を増設するの時に當り、軍當局者は師團の所在地として、始め宮崎鹿兒島佐賀及び久留米等を視察したりしが、地の平野よして其中央の位置を占め、而かも物資の供給に富み、天然の險要に頼みし兵を訓練すべきは、久留米の土地に於てするに如かず、即ち明治四十年愈其位置

を設定して師團を増設する事に確定し占り、師團敷地は筑後一市六郡の献納金より買収せしが、師團の増設せる否とは土地共物の影響を蒙る繁榮は尠なからず、一般人民が之を歓迎するの熱誠は殆んど面に溢れたり、依て明治四十一年三月より工事に着手し同年十二月に至りて大畧其竣功を告げたるを以て、第十八師團は其竣功と同時に開設する事になりたり、歩兵二旅團四個聯隊野砲騎兵工兵山砲輜重の各特科兵等を総括して、師團司令部は三井郡國分村字東久留米に位置し久留米市に近接せる最も近距離の處より歩兵第二十四旅團は、師團司令部の東南約一里余を隔て、是又三井郡國分村字國分に設置せられ、而して此地は彼の有名な高良山の麓に位して土地高燥、軍の衛生上より言ふも殆んど洮向の土地にて歩兵第五十六聯隊の兵舎、歩兵四十八聯隊の兵舎衛戍病院等を收容せり、特科隊は工兵營を御井町に置く外、他の野砲山砲騎兵輜重兵營等は總へて、師團司令部を西北三潞郡鳥飼村字十二軒屋に建設したり、又歩兵第四十六聯隊は大村に歩兵第

五十五聯隊は佐賀に重砲兵は佐世保及長崎に在りて孰れも明治四十三年を以て兵員完整を告げ、未だ日猶は淺きの感あれども、師團の訓練宜ろしきと部下將校の熱誠なる教育等に依りて、殆んど模範師團の稱あるべく、大演習に年加するは實に今年始めての事なれども、劍を侵かし銃火を蹈むの勇氣に乏しからざるし、昨今の師團長は陸軍中將男爵大迫尙道にして第二十四旅團長は陸軍少將福田雅太郎氏あり聯隊長には歩兵第四十八聯隊長松前正義歩兵第五十六聯隊長福留龜太郎、野砲聯隊長木下宇三郎騎兵第二十四聯隊長奥野幸太郎、山砲第十八大隊長山内正至工兵第十八大隊長星野省三郎、輜重兵第十八大隊長關祐三郎此他兵器支廠長には田邊正輔軍醫部長に寺西幸作衛戍病院長に高橋直勝獸醫部長に小林駒太郎法官部長に岩越謹吾の諸氏執務せり

吉井町の事情

吉井町は久留米より日田町に通する中央に位し古昔は日田町よりする貨物は一應

此の町に蒐集し更らに他は轉送すべし即ち日田町よりす因貨物の經由地なりしを以て随分富裕發展を極めたが近年に至り交通發達し又筑後川の舟運も一層便益を附したるを以て從つて自然に影響を蒙り股脈昔日の如くならず然れども元來富裕の地なりしより諸事業は早くより開け銀行會社の如き吉井銀行を始め大成銀行肥料銀行の如きも出来て金融機關の發達を計ると共に多方面に向つても發達を計りつゝあれば其熱情と勉力を依りては或は其景氣を挽回する事も決して難きはあらざるべし郡役所あり警察署あり郵便局あり學校あり女學校あり裁判所あり料理業者等ありて自事不便を感ずる事なしされば町内の區域も相應に廣くして猶ほ發展の余裕に乏しからず近時筑後軌道會社は更らに吉井町を基点として日田町に通ずる軌道の開道を計りつゝ、あれば之れが發成の曉に至れば更らに面目を改むるも蓋し遠き事にはあらざるべし

田主丸町の發展

田主丸町は久留米より大分縣日田郡日田町に通ずる要路に當り地勢廣濶田野開け附近の需用地に乏しからず此地昔は左程富裕ならざりしも維新以後頗る開け吉井久留米間に通ずる軌道の開通せしより附近の貨物頗る蒐集し殊に近年に至り苗木の産地に適するを知り桑柘柑松杉其他總べての苗木は年一年に増加して製産額尠なからざるを以て之れが爲め之等取引上に要する銀行は町の中央に位置して金融機關を掌るより諸事業の發達と共に町家も漸次繁殖して今日にては吉井町を壓せんとするの勢を呈せり學校あり郵便局あり警察分署ありて百事整頓せりされば料理屋の如きは町の幅員狭きあるに拘はらず意外に多きを加へ白晝紛議の聲を聞く杯は決して彌しからず尙ほ該地は新進氣鋭の人に乏しからずして總ての諸事業は今猶ほ日を追ふて發展しつゝ、あれば茲處四五年を経過せば更らに面目を一新するに至るべし

御井町

三井郡は高良嶺麓に在り戸數多からされども高良神社に參詣するの道路に當るを
現を爲めに其參詣人の往來祭日に際しては町内股賑を極め時ならざる壯觀を呈す
る事あり近時第十八師團の増設と共に工兵隊の兵營附近に建設せられたる又軍大將校
の在任する寮の多きを加へるより戸數も日に増し増加するの傾向あり地勢左程高
き所なきとも眺望の絶佳なる春風台蕩の候に於ては菜花麥圃の間に散點して久留米
市は固より肥筑の平野を觀望し得るの絶景殆ど言語の外にあるならん

北野町と由來

三井郡の南北の隅に在り戸數三百戸位町は二筋町にして村内の一部落と擇ふなき
も久留米市を距る二里半余を隔てるを以て附近の需用者多く商賈も亦可なり繁
昌を極め居り同地に天満宮あり北野天満宮とて社傳に依れば後冷泉帝の御宇天
喜二年三月二十五日中の關白道隆の男藤原中宮太夫の次男眞仙僧正の勸請に係り
源の頼義頼朝の二卿より神領を寄附し後ち草野太夫更らに建築を加へ慶長年間田

中筑後守忠政神田五十二石を寄附したりと毎年九月廿五日を以て祭禮を行ふもの
なるが地方よりの參詣多く現今存在する社殿は何時頃の建築に属するものあるが
詳しく其年號を明らかにせずと雖も社殿は頗る輪喚美を尽せり思ふに北野町の出
づるも一は此の神社に基因するものにして漸次今日の勢力を呈したるならん近時
此地を基点して鳥栖驛及び久留米驛に通する電氣鐵道の計畫あり目下土地の實測
に着手しつゝ、あれば果して竣功の曉に至れば交通の便利に加へて更らに一層の賑
を呈するも近き將來なるべきか三井郡役所の所在地にして學校あり病院あり郵便
局ありて通信機關等には毫も不便を感ずる事なし

浮羽郡の名勝舊蹟

浮羽郡は九十九峯より成る耳納山の前面に位置するを以て地勢險要の地を占め隨
つて古昔土豪の住するもの尠かからず現に今日に於ても其舊跡城趾等を發見する
尠なかずと雖も今一々之を枚擧するに遑あらず然りと雖も其名勝舊蹟の著あるも

のは頗る世人の注目し値するもの渺なからざるを以て其一三を掲載せんに先づ觀音寺田主丸の東北一里余に在り之明帝の御宇和銅二年僧行基の開基に係り本尊は十一面觀音にして赤旃檀一丈八分の立像なり西域毘首羯磨か作にて天皇の玉體守護の靈像たりしに天皇の靈夢に依り行基勅を受けて靈像を携へ九州に下向し荆棘を刈石地を開きて造營したるものなりと即ち石垣寺の稱あるものにして頗る其名著なる其造營の年號の舊き事は明らかにして現に此頃に至りても種々の古物を發掘する事あり昨年の如きも其發掘品に係かる物品を官内府に献納したる事あり如何に其星霜を経たるの舊きを徴するに足るべし又窟堂の古趾とて生葉郡小橋村に在り縦三間余横六間余高一丈余天工の巖窟なり唐正二年開基して開巖山妙仙庵と號じ尼寺たりしが今は廢して三軀の古佛のみ残り神社には若宮八幡宮若宮村に在り應神天皇仲哀天皇を祭りたるものにして社傳に依るも建立は頗る舊き事に屬す加茂神社山北村にあり瓊々杵尊を祭り三次大明神山北村に在り妙見祠新川村に

在る等孰れも相應の經歷を有するものなり

八女郡の郡是と町村是

八女郡にては現時實業の膨脹すべくして未だ然らざるは一般に勸業銀行農工銀行を利用し若くは一致協力して利益の増收を計るの勸念に乏しき起因する者とし曩に本縣浮羽郡に於て調査したる例に倣ひ郡の實業施設及獎勵に關する郡是町村是を決定するの必要を認め其第一着手として現今の實業に關し調査方法を定め是に準據して詳細精密なる調査を行ふに決し郡是調査には拾貳名の委員を撰定し郡長自ら委員長として調査に従ひ郡書記三名を以て編纂の任に當らしめ町村是調査には役場主任書記を以て専務調査掛とし町村の區長及三名乃至五名委員として調査に従事せしめ其編纂は郡是編纂掛に於て之を編纂せり斯の如く郡民一致して實業發達の計畫に熱中せるは蓋し地方に於て稀に見る所なり之に要する經費は町村にありては平均五拾圓即三十ヶ町村に對し郡費より壹千五百圓を補助し各町村又

別に多少の経費を設け委員の平常慰勞費及印刷費は充て郡にありては委員及臨時
雇の旅費日當印刷費等に凡五百圓を支出せり調査の事項は之を三編に區別し第一
編は現況にして十二項に別ち第二編は参考にして第一章農業を拾壹項に第二章工
業を七項に第三章商業を八項に第四章經濟を二項に別ち第三編は將來にして第一
章農業政策を拾七項に第二章工業政策を拾項に第三章商業政策を八項に第四章品
評會共進會開設第五章信用組合組織第六章實業教育の普及第七章郡經濟の道途を
三項に區別したり

立花家農事試驗場

立花家農事試驗場は伯爵立花寛治君の設置する所にして山門郡川邊村に在り廣く
内外各種の有用植物を蒐集して之を栽培し以て實驗せり伯は舊河藩主にして華
胄の身なるも身躬ら農夫に伍して耒耜を把り毫も厭ふ色なく又僻陬の郡村種苗を
闕くの店舗なく良種苗よ乏しきを憂ひ毎年二回場内に種苗交換會を開くことを例と

北傍ら諸作物を陳列して場内を縦覽せしむ當時遠近より來り會する者頗る多く爲
に倍良種普及を見る又農事の智識を上進せしめん爲め農談會を組織し毎年其の
開設に際し耕作品を陳列して参考とし實地の經驗學理の應用を談論討究し農家に
裨益を興ふる事少からず伯斯の如く農事に勵精するより近傍農家の風を開きて
興起する者多し世の貴族と稱する者或は徒に飽食逸居を事とし或は聲色名利の間
に汨没して高遠の心志を缺ける今日伯は華都の地を棄て決然居を其舊土に移し稼
穡を以て無上の快樂とあし國家致富の源を養ふ千百の貴族中伯の如きもの果して
幾人かある明治廿八年官其功を賞し藍綬褒章を賜ひ廿九年大日本農會は紅白綬有
効章を贈與したり

蠶桑耕作と種油

蠶桑耕作の起原は古しと雖盛に之を栽培するに至りたるは凡百余年前享和文化の
頃農家一般に二毛作の利益あるを覺りたる時にあり維新の後種油は輸入石油の爲

め壓倒せられ従て蠶桑作も稍退歩の状を呈したるも其後種油の需用再興するを共に頽勢を回復せり明治十五六年の頃朝鮮蠶桑の渡來するや粕屋郡先づ之を試植し舊農學校に於て其有益あるを公告したるより大に耕作の區域を擴張し企救郡の如きは此種の外又在來種を耕作する者なし三十年より於る耕作反別八千七百八拾壹町歩産額九萬千六百四拾壹石種油も亦榎職と同じく衰頽の傾きあり三十年の製造家は八百四戸産額貳萬貳百六拾七石價額五拾五萬千七百七拾圓就中製造家の多きは三瀨郡にして百六拾八戸産額の最も多きは三井郡にして四千三百二十五石なりとす

東洋紙發明家江下伊平

東洋紙は清國に輸出する者にして八女郡の産出に係り本縣の重要物産たる製紙の大部分を占め産額拾六万九千七百圓に達せり其創業は福島町の入故江下伊平君の發明する所なり君は松嶋九平の次男初め甚右衛門と稱す入りて江下伊平を嗣ぐ家世々紙商を業とす伊平没するに當り其名を襲ひ益意を商業の發達に致し國産の販

路秋隆なるを慨歎し嘉永七年半切紙の原料を長崎に輸出し清商に賣却したるも其需用に適せず百方力を之か研究に盡し安政二年漸く抄造の方法を發明す東洋紙即是なり而して之を輸出するよ三の商標を以てしたるに大に其嗜好に適し彼れの信用を厚ふし三の商標ある者は莖包の儘取引をなすに至れり爾後年一年よ其産額を増加し今日あるを致せり官其功を追賞し明治十七年金拾五圓を賜ふ

株切鋏發明家佐野貞造

三洲上妻下妻の地螟虫の害劇甚なるを以て當局者は之れが驅除を勸誘し明治十二年三郡を聯合し羽犬塚に驅除法の協定会を開催し三郡の中二百二十二ヶ村を十八區に別ちて試験場を設け擔任者を置き螟虫の性質變化の試験を行へり君亦撰ばれて其一人たり翌年試験成績の報道會を開催するや株切鋏を考案し上牟田の鍛冶水落又藏をして製作せしめ同會に提出す之を株切鋏製作の嚆矢とす先是君の試験を擔任するや螟虫は卵生にして冬季稻株に蟄居し越冬するを以て之が驅除を行ふには

稻株を採掘するの良法なるを信じ百方考案を廻らし漸く實用に適當するを得たるを以て時計を携て田畔に出で之が工程を試験せしに十時間にして八畝歩を採掘するを得たり然して會議は急進と漸進の二派に分れ論議決せず君此器を提出して説明する所あり遂に急進に決定し直に採掘に着手するに至れり次で廿五年稻株切斷法を實施するや其採掘に手数を要する事多く且此地方は粘土にして株に土付多く雨後にありては實施し難きを以て鍬先の曲を平になし切斷する事に改良せり今筑後地方に於て株切に用ゆるものは即此器にして遂次製作に使用に慣れ一日一反歩乃至二三畝歩を切斷し得べし其當業者に便利を與へたる事夥多にして驅除を助ける功亦大なり

螟虫精通家益田素平

君は八女郡三川村の人天保十四年を以て生る専ら志を農事の改良に委し文久年間元上妻郡江口組惣代勤務の際其餘暇を以て稻作改良の試験を行ふ御奉行下坂某其

熱心に感じ各地の粃種を蒐集し實驗の資料に供せり其品質在來種に比し佳良にして收穫多きも枯穂甚だ多くして遂に好果を得ず農家は此害を以て人力の得て防ぐべからざるものとす君亦此志想中の一人たり元治元年江口村の庄屋となり村民穂枯の爲め非常の慘狀に沈淪するを見之れが豫防法を講究するの急務たるを覺り百方講究に勉め明治六年稍得る所あり即早稻は普通より十日餘早く晚稻は十日餘遅く移植し多少被害を減する事を明にし農家の賛同を得たるも是れ螟虫發生の時期を避くるに外ならず十年開農議會雜誌に蝗虫は卵生たるの記事あるを見之れが驅除を質すと同時に縣廳に上申し縣廳又勸農局に移牒し翌年同局より蝗虫は卵生たるを以て稻株を採掘すべき答報あり此年秋螟虫の名を付せり當時螟虫は卵生にして二化性たる事明なりと雖未だ三化性螟虫あるを知らず君刻苦を重ね研究を積みて之を發見し其蕃殖甚しく蝕害の迅速なるを詳にし爾來一層實驗を経て大に得る所あり十二年被害地の郡長羽犬塚に會合し君をして驅除法を説明せしめ次で上下

妻三瀨三郡の聯合會を開き驅除の實行を協定するに至る此年又三郡の町村議員を召集し螟虫の性狀變化を説明し妄信者の迷霧を排し大に驅除を實行せんとす然れども多數の農民は未だ湧生物たるの觀念を脱却する能はず大に之が實行を防ぐ是に於て其性狀變化を農民に熟知せしむるにあらざれば到底實行の期し難きを信じ當路者の間に奔走し三郡中廿五ヶ所に試験場を設置す農民其成績を口撃し多少悟る所あり十三年尙猖獗を極め七八割の被害を蒙れり故を以て三郡及山門郡の中七ヶ村を併せて聯合會を開設し驅除法を協定したるも農民は猶驅除の手数を厭ひ決議に苦情を唱へ遂に竹鎗蓆旗の暴舉に出づ君が故舊其危害の迫るを以て之を避けしめんとす君肯せず身既に國家に委す假令寸断せらるゝも農民の頑迷を撥破するにあらざれば止まずと決心愈堅く東西に狂奔し稻株採掘の業を畢ゆ此歎賞すべき盡瘁は其効空しからず翌十四年より廿三年に亘り螟害の慘毒を免るゝを得たり爾後之が實行に努め或は各地の招聘に應じて其實験を説き或は稻虫實驗録を著し或

は道路の改脩土地の改良等功蹟頗る多く其名聲遠近に聞ゆ明治十七年本縣知事其功を賞し木杯を賜ひ三十一年本縣農會亦金員贈與せり


立毛共進會創始家高松重藏

三井郡太刀洗村高樋は土地瘠薄加ふるに地域廣きを以て農事日に衰頽し貧困に逼る者多し於是君救済の策を講ずるの急務を感じ土地を肥沃にし以て收穫の増加を計らんと欲し有志を糾合し苟も獎勵の道ある者は之れを施設し其効空しからずと雖尙未だ改良の餘地あるを以て明治二十一年稻粟立毛共進會を開催せり其方法株の配列、手入の精練、害虫驅除の勤怠、穗揃の良否、雜種混合、稗等の有無に就て審査を施行せり之れを全國に於る立毛共進會の嚆矢とす抑も本會は普通共進會の如く徒に虚飾故造し賞與を僥倖する等の弊なく苟も褒裳の榮に預らんと欲するものは始終耕作に精勵せざるべからず故を以て當業者大に奮起し撰種に施肥に培養に互に競争を試み土壤を肥沃となし收穫亦増加するに至れり之れを維新以前に比す

れば一反歩一石余十年前に比すれば四五斗乃至七八斗の增收あり此好結果により
立毛品評會は遂に一村一郡に及び他府縣に於ても之に倣ひ開設するものあるに至
れり本縣知事其功を賞し二十七年木杯壹組を贈與す若し其詳細を知らんと欲せば
三井郡役所出版立毛共進會沿革書太刀洗村立毛共進會々則に就て見るべし

久留米市外花畑
洋服商 太田 茂

和洋紙帳簿
歐米文房具
筆墨學校品
流行小間物

卸 久留米市今町七番地
商  久富源助
電話五百四十五番

久留米市日吉町
川副洋服店

洋傘
絨製品 卸商
メリヤス
久留米市片原町
今古賀眞吉
(電話五十三番)

高等洋服調進
並既製品各種
久留米市通町一丁目
平田洋服店
(電話七百十九番)

菓子彫並ニ
木版彫刻
久留米市田町
松尾尙古堂

久留米洋服業案内

陸軍御用

流行服装調製並

星子洋服店

電話三三番
電器(ホシ)

軍服附屬品販賣

久留米市新町

勿驚英國皇太子殿下一ヶ年被服費三万
五千圓米國大統領タフト氏三万圓其俗
間に於てや、装美に重きを要す可し

久留米市楠原町三丁目

高尾高等洋服店

栗林の洋服は

商標
高等
服装
調製
進



久留米市今町中ノ丁

飯田商會

商標
洋服商
平佐支店



久留米市外花畑

平佐勝太郎

久留米市片原町

金銀公債両替 黒岩和藏

陸軍

諸官衙 御用達

各學校

久留米市学扱川町三丁目

萬小間物商 前田節五郎

(電話七二五番)



久留米市片原町

茶舗 木屋平藏

(電話四六〇番)

久留米市通町八丁目

製靴店 權藤五郎

大分縣日田町字庄手橋通

製靴店 權藤支店



廉齒研器械價

精寫真器械品

商標 登錄 藥

種械器療醫

忠

大電 石 次 郎

大 石 次 郎

電 話 口 座 番

一 六 三 三 二 一

町今市米留久

油石ンサグンシイラ

クソーロヒサア

店賣販米留久

リ 通道軌町武國市米留久

(番三四三話電)

商品課目

椅子 卓子 類

各學校生徒用机類

醫術用器具品

寫真場用器具品

卓子掛窓敷物類

右之外御求メニ應ス亦々修繕類可仕候

賣販造製具家洋西

達用御校學各署官諸

商品飾裝內室具家洋西

店商高日

目丁四町通市米留久

各國藥種
工業藥品



久留米市通町十丁目
山田藥舖
電話(ヤマダ)

名譽金銀賞受領

美術履物

ねろし小うり



久留米市田町角
松村岩吉商店
(電話五五三番)

防水布製造

一等賞金牌受領

販賣所



久留米市學扱川町
竹下安太郎

明治四十四年十月二十六日印刷
明治四十四年十一月一日發行

定價金貳拾錢

著作者 大森三郎

福岡縣山門郡沖端村大字筑紫二百六拾七番地

發行人 田中幸次郎

福岡縣久留米市米屋町二十六番地

印刷所 山浦活版印刷所

福岡縣久留米市莊島町四百十三番地

印刷人 山浦宗三郎

福岡縣久留米市莊島町四百十三番地

發行所

福岡縣久留米市
米屋町二十六番地

蟠龍堂

268

497

歐米諸樂器直詠



久留米市新町一丁目

井上樂器店

電話七六一番

振替福岡二二三五

オルガン、ウイオリン、月賦販賣、便方あり、購買希望者、此際至急申込

- 工業藥品
- 寫真原料品
- 賣業請賣
- 藥品卸賣
- 醫料器械
- 洋酒洋食品
- 阿片卸賣所
- 純藍
- インヂャコピユア



豐源堂 水田常三郎

久留米市通町一丁目
くすりや

水田藥店營業種目

水田藥局主任 專長 藥學士 安河内義夫

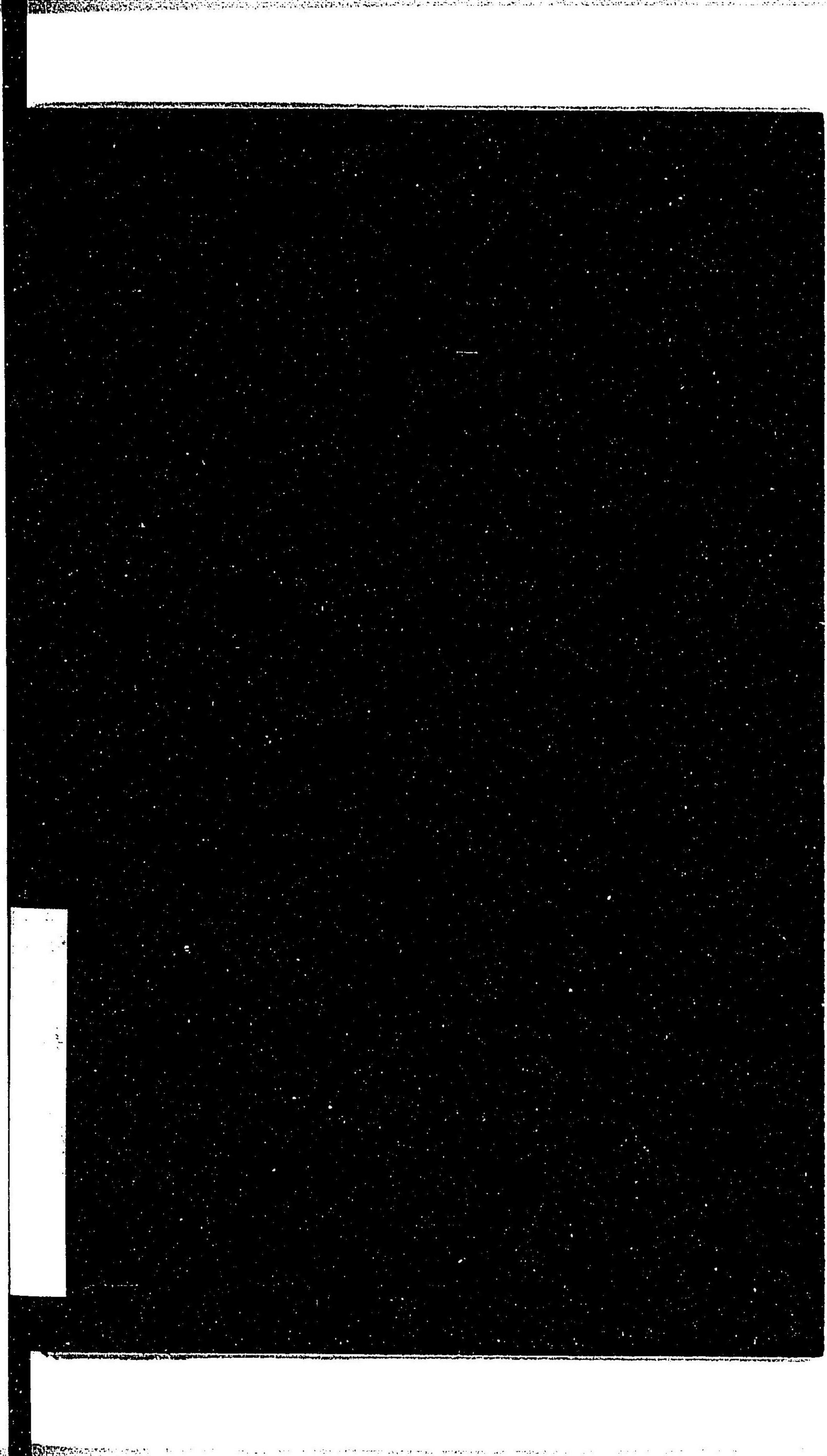
電話二一〇番
振替貯金福岡八九番



久留米市三本松町

荒甚吳服店

電話二二五



特 20

290

大演習
紀念 南筑案内記

国立国会図書館

026272-000-6

特20-290

南筑案内記 (大演習紀念)

大森 柳川(三郎) / 著

M44

ADC-4028

